

第5学年

年間指導計画

## 第5学年の指導計画作成のポイント

### 1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ＜知識及び技能＞
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ＜思考力、判断力、表現力等＞
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。 ＜学びに向かう力、人間性等＞

#### (1) <知識及び技能>の改訂のポイント

- ・「国土の様子」が「国土の地理的環境の特色」に、「産業の様子」が「産業の現状」に文言が変更された。
- ・「国土の環境と国民生活との関連について理解」と「産業と国民生活の関連について理解」が共に「国民生活との関連を踏まえて理解する」ことに改訂されるとともに「社会の情報化と産業との関わり」が追加された。
- ・「社会的事象を具体的に調査」「各種の基礎資料を効果的に活用」をまとめる技能が明記されて「情報を適切に調べまとめる技能」に改訂され、第4学年の目標にない「適切に」という文言を加わってより高い技能を身に付けることが求められている。

#### (2) <思考力、判断力、表現力等>の改訂のポイント

- ・「社会的事象の意味について考える力」が「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力」に改訂され、第4学年の目標にない「多角的」という文言が加わるとともに、「社会に見られる課題を把握して、その課題に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」が追加された。
- ・第4学年の目標にない「説明」と「議論」という文言を加えられてより高い表現力が求められている。

#### (3) <学びに向かう力、人間性等>の改訂のポイント

- ・「主体的に学習の問題を解決しよう」「学習したことを社会生活に生かそう」とする態度を養うことが示された。
- ・「関心をもつ」が削除、「国民としての自覚」が明記されて、多角的な思考や理解を通して養うことが求められた。

### 2 内容の改訂ポイントと単元配列案

○内容（1）「我が国の国土の様子と国民生活」← 旧内容（1）からアとイを独立させて設定。

○内容（5）「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」←旧内容（1）からウとエを独立させ、エを「自然災害の防止」と「森林資源の保全」に分けて設定。

○内容（3）「我が国の工業生産」←旧内容（3）のウを「工業生産に関わる人々の工夫や努力」と「工業生産を支える貿易や運輸などの働き」に分けて設定。

#### ★単元配列案

合計時数 100 時間

学習指導要領の内容		小単元名		配当時数
(1)	我が国の国土の様子と国民生活	世界中の国土		5 時
		国土の地形と気候の概要		5 時
		特色ある地域	選択；低い土地の暮らし、高い土地の暮らし	6 時
			選択；あたたかい土地の暮らし、寒い土地の暮らし	6 時
(2)	我が国の農業や水産業における食料生産	暮らしを支える食料生産		6 時
		米づくりのさかんな地域		8 時
		水産業のさかんな地域		8 時
(3)	我が国の工業生産	日本の工業生産と工業地域の特色		6 時
		自動車をつくる工業		8 時
		工業生産を支える貿易や運輸		6 時
(4)	我が国の産業と情報との関わり	放送などの産業とわたしたちの暮らし		8 時
		情報と産業の関わり（観光業）（販売業）（運輸業）		8 時
(5)	我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	自然災害を防ぐ		6 時
		わたしたちの生活と森林		7 時
		環境を守るわたしたち		7 時

### 3 学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容 (1)	(7) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成など	調べたことを総合して国土の特色を考える。	我が国の国土の構成と領土の範囲を大まかに理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国固有の領土であることに触れる</li> <li>・地図帳や地球儀を用いて方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱う。</li> </ul>
	(8) 地形や気候など	国土の位置と地形や気候を関連付けて国土の特色を考える。 国土の自然環境と国民生活の関連を考える。	国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活から人々は自然環境に適応して生活していることを理解する。	
内容 (2)	(7) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなど	情報を総合したり食料生産と国民生活を関連付けたりして国民生活に果たす役割を考える。	我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え、これからの農業や水産業における食料生産の発展について、自分の考えをまとめることができるように配慮する。</li> </ul>
	(8) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用など	食料生産の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて食料生産に関わる人々の働きを考える。	食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な食料を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解する。	
内容 (3)	(7) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良など	情報を総合したり工業製品の改良と国民生活の向上を関連付けたりして国民生活に果たす役割を考える。	工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮する。</li> </ul>
	(8) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術など	工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて工業生産に関する人々の働きを考える。	工業生産に関わる人々は消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する。	
	(9) 交通網の広がり、外国との関わりなど	工業生産や運輸の働きを関連付けて、貿易や運輸の役割を考える。	貿易や運輸は工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解する。	
内容 (4)	(7) 情報を集め発信するまでの工夫や努力など	放送局や新聞社などから発信される情報と自分たちの生活を関連付けて国民生活に果たす役割を考える。	放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業における情報活用」の事例については、教育、福祉、医療、防災から教育、防災が削除され、新たに販売、運輸、観光が加わった。</li> <li>・産業と国民の立場から多角的に考え、産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるように配慮する。</li> </ul>
	(8) 情報の種類、情報の活用の仕方など	情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて国民生活に果たす役割を考える。	産業における情報活用の現状を捉え、大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解する。	
内容 (5)	(7) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策など	自然災害と国土の自然条件を関連付けて自然災害が発生する理由や防災・減災の対策や事業の役割を考える。	自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源の働きや公害の防止において環境保全について自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるように配慮する。</li> </ul>
	(8) 森林資源の分布や働きなど	森林の分布と国土の保全を関連付けて森林資源の果たす役割や保護の大切さを考える。	森林は国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。	
	(9) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力など	公害防止の取組と環境改善の人々の健康な生活を関連付けて継続性、協力的な取組の大切さを考える。	公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解する。	

### 4 各内容のポイント

- (1) 内容(1)「世界の中の日本」では、海洋に囲まれた多数の島からなる国土の構成に着目して追究することや地図帳や地球儀などを活用して位置や方位を言い表すことができるよう指導することが大切である。また、領土の範囲を指導する際には、竹島や北方領土、尖閣諸島は一度も他の国の領土になったことがない領土という意味で我が国の固有の領土であることなどに触れて説明することが大切である。
- (2) 内容(2)「我が国の食料生産」では、農業法人や海外への輸出、持続可能な漁業を目指した水産資源の保護、6次産業化などの新しい取組を取り上げ、生産性を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。
- (3) 内容(3)「我が国の工業」では、工業製品の変化や優れた技術に着目して追究するとともに、人々の安全、環境、価格、利便性、バリアフリーなどに対する願いが工業生産により実現されていること、優れた技術の向上が我が国の工業をより発展させることなど工業の発展について自分の考えをまとめることが大切である。
- (4) 内容(4)「情報と産業の関わり」では、販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から、大量の情報（ビックデータ）や情報通信技術を活用してサービスを向上させたり、複数の産業が相互に結び付くことで新たなサービスを提供したりして国民生活の利便性を大きく向上させている事例を取り上げ、利便性が向上する一方で適切な情報を見極めることなど情報活用の在り方を多角的に考えて、情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。
- (5) 内容(5)「国土の自然環境と国民生活」では、自然災害と自然条件の関連、森林資源が国民生活に果たす役割、公害防止に対する人々の工夫や努力などを基に国土の自然環境と国民生活の関連を考え、国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した行動が求められるなど国民一人一人の協力の必要性に気付くようにするとともに、自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして国土の環境保全への関心を高めるように配慮することが大切である。

小単元名	世界の中の国土	配当 5時間	内容 (1) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	---------	--------	-------------------------

＜主として「地理的環境と人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や地図帳・地球儀を用いて文にまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。	①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して問いを見出し、我が国の国土の様子について考え、表現している。 ②我が国の国土の位置や形状、面積などを総合して、我が国の国土の特色を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。島国である我が国の国土の特色を中心に取り上げている。
- ②「領土の範囲」に関して、竹島や北方領土、尖閣諸島は一度も他の国の領土になったことがない領土という意味で我が国の固有の領土であることなどに触れて説明することが大切である。その際、これら我が国の立場は、歴史的にも国際法上も正当であることを踏まえて指導することが求められている。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲など」を大まかに理解できるように、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせながら、地図帳や地球儀を用いて、方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱う。
- ②我が国の国土の様子を捉えるために、世界の主な国も扱うようにする。主な国とは、近隣諸国を含めてユーラシア大陸やその周りに位置する国々の中から10か国程度、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ2か国程度選択することが考えられる。その際、それらの国の名称や我が国との位置関係を世界地図や地球儀で確認させ、産業に関する学習などにおける基礎的な情報となるよう指導することが大切である。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①第1時にまず、第4学年で学習した東京都の位置を確認する。東京都は関東地方にあり、埼玉県から南、神奈川県から北にあり、小笠原諸島や八丈島など多くの島々を有しているなどという発言を生かしながら、東京都の位置から日本の位置へと視点を広げる。そこから我が国の国土の様子を捉える学習問題や世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成に着目する問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②北方領土を巡る領土問題や竹島、尖閣諸島のことを扱う際は、まず、日本地図で場所を調べ白地図に表すことで日本の領土の範囲をつかむようにする。そして、新聞記事などの資料を活用しながら、それらの島は日本の固有の領土であることを調べる活動を行う。
- ③児童一人一人が考えた学習問題の結論を総合してまとめ、自分なりの言葉や地図帳、地球儀などを用いて日本の位置を外国人に説明する学習活動を設定する。

### 3 小単元の指導計画 (5時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①国土の広がりや世界から見た位置について問いをもち、学習問題や学習計画を立てる。	○他県から見た東京都の位置の言い表し方を考える。 ○世界の国々や大陸、海洋から見て日本の位置を説明するにはどうすればよいか考える。 ○学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本は、世界の中でどこにあり、国土はどのように広がっているのだろうか。</div> ○学習問題に対し予想したことから学習計画を立てる。 ・日本は太平洋や日本海の海に囲まれているな。 ・他にどのような国があるのだろうか。 ・日本の近くに、韓国や中国があるな。 ・日本の一番端の島は何かな。	◎日本地図 ◎東京都の地図 □東京都から見た方位の捉え方を確認する。【思①】 □小笠原諸島や沖ノ島も東京都であることを確認する。  ◎世界地図や地球儀  【態①】
調	②世界の主な国や国旗、主な大陸や海洋について理解する。	◆世界にはどのような国や大陸、海洋があるのだろうか。 ○資料などから世界の主な国々や国旗、主な大陸や海洋について読み取り、白地図に調べたことをまとめ、世界の主な大陸や海洋の特徴について話し合う。 ・世界にはたくさんの国があり、それぞれに国旗がある。 ・どの国も国旗を大切にしている。 ・世界には6つの大陸がある。 ・大陸だけでなく島にも国がある。 ・世界は海でつながっている。	◎地球儀 ◎世界地図 ◎主な国の国旗 □地球儀の使い方と緯度、経度による位置の読み取り方を確認する。また、赤道についても確認する。 □日本の国旗の意味を確認し、他国の国旗も確かめる。  【知①】
べ る	③我が国の近隣諸国について理解する。	◆日本のまわりにはどんな国々があるのだろうか。 ○資料などから近隣諸国の名称や位置、国旗などを読み取り、白地図に調べたことをまとめる。 ・日本から見て北にはロシア連邦、北西にはモンゴル、西には大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国、南西にはベトナムやフィリピンがある。	◎地球儀 ◎日本の周りの国々の地図 □方位に関することや近隣諸国の間に何があるかなど、地図帳や地球儀を使って調べるようにする。  【知①】
	④我が国の広がりについて理解する。	◆日本はどのように広がっているのだろうか。 ○日本の領土の構成を調べ、その特徴を話し合う。 ・東端に南鳥島がある。 ・日本はおよそ6,800の島でできている。 ○北方領土や竹島、尖閣諸島を白地図に表すとともに、領土の意味や問題となっていることを調べる。	◎地球儀 ◎日本地図 □日本の東西、南北の距離、緯度と経度を調べる。 □北方領土や竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを説明する。【知①】
ま と め る	⑤学習問題の結論を考え、自分の言葉でまとめて伝え合う。	◆世界の中で日本はどこにあり、どのように広がっているのだろうか。 ○外国の人に日本の位置を説明する文章を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・日本は北半球にあり、ユーラシア大陸の東方に位置し、太平洋や日本海、オホーツク海などに囲まれ、大小の6,800以上の島々が弧状に連なっている。</div> ○地図帳や地球儀を使って、我が国の位置について説明し合ったり、領土の範囲を確かめ合ったりする。 ○学習を振り返って日本の国土の特色について考え、ノートにまとめる。 ・日本はたくさんの島々でできている。その島々でくらす人々はどのように生活しているのだろうか。	□地球儀や地図帳を用いて説明するよう言葉掛けを行う。   □日本の国土面積の世界順位や領海や排他的漁業水域の広がり確かめて書かせる。  【思②】【知②】

小単元名	国土の地形と気候の概要	配当 5時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-------------------------

＜主として「地理的環境と人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子について、地形や気候などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子を捉え、国土の自然環境の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形や気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地形や気候などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子を理解している。 ②調べたことを白地図や地図帳を用いて図や文などにまとめ、我が国の地形や気候の概要を理解している。	①地形や気候などに着目して問いを見出し、国土の自然などの様子について考え、表現している。 ②国土の位置と地形や気候を関連付けて、国土の自然環境の特色について考え表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「我が国の国土の地形や気候の概要を理解すること」と記述され、地形や気候を別々ではなく、二つの内容を合わせて我が国の国土の地形や気候などの自然環境を理解することが求められている。
- ②「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子を捉え、国土の自然環境の特色を考え、表現すること」とある。地形や気候に特色ある地域の人々の生活については次の小単元で扱い、本小単元では我が国の地形や気候の様子について調べ自然環境の特色を考えることを通して、地形や気候の概要を理解できるようにする。
- ③内容の取扱い(1)のエに示された「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げることが明記されている。本小単元では、自分が暮らす地域と自然条件が異なる地域を選択し、児童の実態に合わせて教材を工夫することが必要である。

### (2) 教材や資料について

- ①児童が国土の地形や気候の概要を理解できるように、本小単元では国土を概観することを意識させるようにする。地形や気候の特色が分かるよう、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら「日本各地の特色的な事象に気付かせる。我が国の地形の特色である山が多い様子や気候の特色である四季の変化などは、児童自身の経験を追究に生かすやすく児童の追究意欲を引き出していくことができる資料の工夫をしていく。
- ②地形や気候などに着目して、調べるために、現地の写真資料や衛星写真、統計資料などを準備するとともに、インターネットを活用して情報を収集して読み取り調べることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①国土の自然などの様子を捉える学習問題や地形や気候などに着目する問いを分かりやすく設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②調べる段階では実態に応じて軽重をつけたり、場合によっては課題選択で分担させて調べ活動を行ったりできるようにする。
- ③日本の気候の特色である、梅雨、台風、季節風を調べる際には、内容別にグループを構成して調べ、調べた情報を学級で共有する活動を設定する。
- ④毎時間調べたことを白地図にまとめる活動を通して、これまでの学習で獲得した情報を総合して国土の地形や気候の概要を理解できるようにする。

3 小単元の指導計画 (5時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表わす	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①国土の様子について空から読み取ったり、日本の四季の変化を調べたりし、学習問題を設定し、予想を立て、学習計画を話し合う。	<p>◆日本の地形や気候はどうなっているのだろう。</p> <p>○日本の航空写真を基に地形上の特色について気付いたことや考えたことなどを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりを海に囲まれている島国。</li> <li>・山が多くて、低い土地の方が少ないみたいだ。</li> </ul> <p>○同じ場所の四季の変化を示す写真を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本には、四季の変化が見られる。</li> </ul> <p>○同じ季節の日本各地の風景の写真を読み取り、分かったことや疑問に思ったことを整理して学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ季節でも冬のような地域があれば夏のような地域もある。</li> </ul> <p>○学習問題を立てる。</p> <p>日本の国土の地形や気候にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形はどのような特色があるのかな。</li> <li>・日本の季節はどのような特色があるのかな。</li> <li>・気候はどうなっているのだろう。</li> </ul>	<p>◎日本列島(航空写真)</p> <p>◎会津の四季の様子(写真)</p> <p>◎各地の3月の様子(写真)</p> <p>□国土の位置や広がり、高さ、自然の様子などに加えて、山がちであることを扱う際に、火山もあることに着目させる。【思①】</p> <p>□梅雨(つゆ)、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ調べる活動につなげる。</p> <p>【態①】</p>
調べ	②国土の地形から見た特色について理解する。	<p>◆日本の地形にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○平地、山地について知り、国土の特色を国土の景観の写真資料や川の資料などにつなげて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国土の100分の73が山地。</li> <li>・平地は少なく、山が海の近くまで迫っている。</li> </ul> <p>○日本の地形の資料を使って特色を読み取り、地図帳でさらに詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山地や山脈とよばれる地形は、四つの島の主に中央にある。</li> </ul> <p>○日本の火山について資料や地図帳で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北から南まで山地や山脈のところどころに火山がある。</li> <li>・東京都や九州には、火山のある島もある。</li> <li>・国立公園の中にもあった。</li> <li>・火山の近くに温泉があり、日本中に広がっている。</li> </ul> <p>○調べたことを白地図にまとめる。</p>	<p>◎国土の主な景観(写真)</p> <p>◎日本の主な川(資料)</p> <p>◎日本の主な地形(資料)</p> <p>□地形の種類、呼び方、その特色を理解させ、それぞれの特徴的な地形が、国土のどのあたりにあるか白地図にまとめる。</p> <p>◎火山の分布図(資料)</p> <p>◎地図帳</p> <p>□火山付近の温泉を生かしている地域が日本に広がっていることにも気付かせる。</p> <p>【知①】</p>
る	③つゆ、台風、季節風の様子について理解する。	<p>◆日本のつゆ、台風、季節風には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の気候を特色である梅雨(つゆ)、台風、季節風(雪)について調べるグループをつくり、それぞれで調べ学習をした後で、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本列島は6月から7月に梅雨(つゆ)の季節となる。</li> <li>・夏から秋にかけて日本は台風襲われることが多い。</li> </ul> <p>○調べたことを白地図にまとめる。</p>	<p>◎梅雨について(資料)</p> <p>◎台風について(資料)</p> <p>◎季節風について(資料)</p> <p>□それぞれの気候現象が人々のくらしに及ぼしている影響にも資料から読み取らせる。</p> <p>【知①】</p>
	④国土の気候から見た特色について理解する。	<p>◆日本の気候にはどのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の気候を6つに区分した地図と、各地の気温と降水量のグラフを使って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋側と瀬戸内海の気温に大きな差はないが、瀬戸内海の降水量は太平洋側よりも少ない。</li> <li>・日本には様々な気候があり、地形と関係しているようだ。</li> </ul> <p>○調べたことを白地図にまとめる。</p>	<p>◎日本の気候(資料)</p> <p>◎各地の気温と降水量(グラフ)</p> <p>□二つの地域の気温と降水量を比べ、特色を話し合うようにする。</p> <p>【知①】</p>
まとめる	⑤国土の地形や気候について調べたことを振り返り、学習問題について話し合い、自分の考えを表現する。	<p>◆日本の国土の地形や気候の特色を日本にきた外国の人に伝えよう。</p> <p>○調べたことから学習問題に対する自分の考えを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の国土の地形は、山地が多く平野が少なく、海に囲まれた大小の島できていて、火山も多い。また、気候は、四季の変化があり、南と北、地形や季節風などによる地域差が大きい。さらに、梅雨や台風等が、人々のくらしに大きな影響を及ぼしている。</li> </ul>	<p>□調べたことをもとに考えを書くようにする。</p> <p>□作成した白地図を生かして、日本の地形や気候の概要を理解するようにする。</p> <p>【思②】【知②】</p>

小単元名	低い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子と国民生活について、地形などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地形などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①地形などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」を取り上げ、人々は自然環境に適応して生活していることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(1)のエに示された「自然条件から見て特色ある地域」については、「地形条件(山地や低地)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げる」と明記されている。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が、「自然環境に適応して生活している」人々がいることを理解するために、本小単元では地形条件から見て特色ある地域を扱う。事例地として、河口近くの川に囲まれた低地という地形ながら、江戸時代より水害を防ぐための取組や豊かな水を生かした取組が行われている岐阜県海津市を取り上げる。
- ②「地形条件から見て特色ある地域」の様子を捉えるために、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせながら、地図帳や立体模型を活用して地形に着目しながら調べることで、海津市が河口近くの川に囲まれた低地を有していることについて理解できるようにする。
- ③自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉えるために、年表、水屋などの建物や工夫した水田の写真、統計資料などを準備するとともに、海津市役所のホームページの情報も活用することで、地形に着目をして海津市の人々の生活について調べることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉える学習問題や特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組に着目する問い、特色ある自然環境を生活に生かすための取組に着目する問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②調べたことについて話し合い、特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組や特色ある自然環境を生活や産業に生かすための取組について調べたことを海津市の自然条件と人々の生活や産業と関連付けて表にまとめる。
- ③「つかむ」場面では二つの小単元のオリエンテーションを行う。我が国には自然条件に特色のある地域があることを伝え、本小単元では地形について扱うことを確認し、見通しをもって二つの小単元を学べるようにする。



3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を洗す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つか	①海津市の地形の特色を理解する。	○我が国には「地形」や「気候」に特色のある地域があることを知り、地形に特色のある地域について学ぶことを確認する。 ○堤防道路を走る車の写真から、海津市の土地の特徴について話し合う。 ・道路に比べて家や学校の高さが低い。 ◆海津市はどのようなところなのだろう。 ○海津市の土地の高さを表す白地図や立体模型を基に、海津市の土地の特徴について調べる。 ・堤防で囲まれた平らな土地を輪中という。 ○海津市の人々の生活について調べたいことを話し合う。 ・海や川よりも低い土地で、困ったことはないのか。	□二つの小単元のオリエンテーションを行い、学習に見通しをもてるようにする。 ◎堤防道路の写真 □普通の道路を走る車と比較して写真を提示する。  □地図帳を基に日本における海津市の位置を確認する。 ◎海津市の土地の高さを表す白地図 ◎立体模型 【知①】
む	②調べたいと思ったことを整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○調べたいことを分類して学習問題を設定する。  堤防に囲まれた海津市に住む人々は、どのような生活をしているのだろうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・洪水などを防ぐために何か対策をしているのではないか。 ・豊かな水を生かした生活をしているのではないか。	□カード化して分類する。 【思①】  □第4学年「県内の特色ある地域」の学習を想起させる。 【態①】
調	③海津市の人々の水害に対する取組を理解する。	◆低地での生活を成り立たせるために、海津市ではどのような取組がされているのだろうか。 ○水害を防ぐために、輪中の人々が昔からどのような取組をしてきたか調べる。 ・大規模な治水工事(宝暦治水・明治の三川分流工事) ・水害に備えた町づくり(水屋・排水機場) ○水害に対する備えを市民一人一人がしていることを調べる。 ・水害に対する取組(メール配信サービス・水防演習)	◎輪中の航空写真 ◎輪中の土地断面図 ◎立体模型 ◎水害の発生件数の変遷を表すグラフ ◎海津市のホームページ □自然条件と関連付けて、水害防止の取組を考えさせる。 【知①】
べ	④⑤海津市の人々が豊かな水をどのように生活に生かしているか理解する。	◆低地の特色を生活に生かすために、海津市ではどのような取組がされているのだろうか。 ○海津市で行われている農業の様子について調べ、地形との関連について話し合う。 ・田の広さや形を整え、大規模な農業が可能となった。 ・揚水機場やパイプラインにより、必要なときに必要な量だけ水を使えるようになった。 ○海津市で行われている水を生かした取組について調べ、地形との関連について話し合う。 ・カヌーやヨットなどのマリンスポーツが盛んだ。 ・ビーチバレーボールの施設など、広い河川じきを利用した施設がある。	◎1968年の海津市の水田の様子の写真 ◎現在の海津市の水田の様子の写真 ◎海津市の用水路と排水路を表す地図  ◎海津市の水辺の施設を表す地図 □自然条件だけではなく人々の工夫や努力にも着目させる。 【知①】
ま	⑥調べたことについて表に整理し、学習問題の結論を自分の言葉で説明する。	◆海津市の人々は、低地という自然環境に適応してどのような生活をしているのだろうか。 ○海津市の人々の生活の様子と地形との関わりを表に整理し、学習問題に対する自分の考えを表現する。  ・川に囲まれた低地で生活をする海津市の人々は、昔から水害を防ぐために工夫や努力をしてきた。また、豊かな水を生活や産業にも生かしている。	□取組をノートに整理する。 【知②】【思②】

小単元名	高い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子と国民生活について、地形などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地形などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	①地形などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	①我が国の国土の様子と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(1)を基にした「地理的環境と人々の生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」を取り上げ、人々は自然環境に適応して生活していることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(1)のエに示された「自然条件から見て特色ある地域」については、「地形条件(山地や低地)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げること」と明記されている。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が、「自然環境に適応して生活している」人々がいることを理解するために、本小単元では地形条件から見て特色ある地域を扱う。事例地として、標高1200m以上の高地という地形ながら、戦後に荒れた地を開拓し、高地の特色である寒暖差や自然を生かした取組が行われている長野県野辺山原を取り上げる。
- ②「地形条件から見て特色ある地域」の様子を捉えるために、地図帳や立体模型を活用して地形に着目しながら調べること、標高1200mの高地を有していることについて理解できるようにする。
- ③「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉える」ために、年表、工夫した家づくりの写真、酪農や高原野菜づくりの様子、統計資料などを準備するとともに、みなみまき村のホームページの情報も活用することで、地形に着目して野辺山原の人々の生活について調べることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉える」学習問題や「特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組」に着目する問い、「特色ある自然環境を生活に生かすための取組」に着目する問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②調べたことについて話し合い、特色ある自然環境の中で生活を成り立たせるための取組や特色ある自然環境を生活や産業に生かすための取組について調べたことを海津市の自然条件と人々の生活や産業と関連付けて表にまとめる。
- ③「つかむ」場面では二つの小単元のオリエンテーションを行う。我が国には自然条件に特色のある地域があることを伝え、本小単元では地形について扱うことを確認し、見通しをもって二つの小単元を学べるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つかむ	①野辺山原の地形の特色を調べ、理解する。	○我が国には「地形」や「気候」に特色のある地域があることを知り、地形に特色のある地域について学ぶことを確認する。 ○野辺山原の広がり写真から、野辺山原の土地の特徴について話し合う。 ・奥には山が連なり、手前には平野が広がっている。 ◆野辺山原はどのようなところなのだろう。 ○野辺山原の土地の高さを表す白地図や立体模型、野辺山原の気候と降水量のグラフを基に、野辺山原の土地の特徴について調べる。 ○野辺山原の人々の生活について調べたいことを話し合う。 ・高い土地の特色をどのように生かしているのか。	□二つの小単元のオリエンテーションを行い、学習に見通しをもてるようにする。 ◎野辺山原の広がり写真 □自分の住む地域と比較して写真を提示する。 □地図帳を基に日本における野辺山原の位置を確認する。 ◎野辺山原の土地の高さを表す白地図や立体模型 ◎野辺山原の気候と降水量のグラフ 【知①】
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○調べたいことを分類して学習問題を設定する。 高い土地の野辺山原に住む人々は、どのような生活をしているのだろうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・高い土地の特色を生かして、農作物を作っているのではないか。 ・高い土地でくらすために工夫をしているのではないか。	□カード化して分類する。【思①】  □第4学年「県内の特色ある地域」の学習を想起させる。 【態①】
調べる	③④野辺山原の人々が高地の自然の特色をどのように生活に生かしているか理解する。	◆高地での生活を成り立たせるために、野辺山原ではどのような取組がされているのだろうか。 ○高地の自然の特色に対して、野辺山原の人々がどのような取組をしてきたか調べる。 ・寒暖差や強い風に対する工夫(家の造りの工夫など) ・夏にすずしさを求めて観光客が多いので、合宿場所やトレーニングできる場所を設置している。 ◆高地の特色を生活に生かすために、野辺山原ではどのような取組がされているのだろうか。 ○野辺山原で行われている産業の様子について調べ、地形との関連について話し合う。 ・高い土地の自然を生かして、酪農を行い、特産品として多くの人に親しまれている。 ・高い土地の特色の一つである寒暖差を生かして、高原野菜を作り、出荷時期をずらしている。	◎野辺山原の町の様子写真 ◎家の水道管写真 ◎家の2重窓写真 ◎畑のビニルマルチ写真  ◎観光客の推移グラフ ◎合宿場やグラウンド写真  ◎野菜づくり写真 ◎野菜づくりカレンダー ◎野辺山原の主な野菜の作付面積 ◎酪農の様子写真 【知①】
	⑤野辺山原の人々が高地でくらすための工夫や努力について理解する。	◆野辺山原の人々は、高地でくらすためにどのような工夫・努力をしたのだろうか。 ○野辺山原の人々の工夫・努力の取組について調べる。 ・荒地を開拓し、高地の特色を生かすことができる作物を探し続け、努力を重ねた。	◎昔の土地の開拓頃写真 ◎今の野辺山原写真 ◎野辺山原の主な野菜の作付面積の変化 □自然条件だけではなく、人々の工夫や努力にも着目させる。 【知①】
まとめ	⑥調べたことについて表に整理し、学習問題の結論を自分の言葉で説明する。	◆野辺山原の人々は、高地という自然環境に適応してどのような生活をしているのだろうか。 ○野辺山原の人々の生活の様子と地形との関わりを表に整理し、学習問題に対する自分の考えを表現する。  ・高地で生活をする野辺山原の人々は、高地でくらすために土地を開拓する工夫や努力をしてきた。また、高い土地の自然の特色を生活や産業にも生かしている。	□取組をノートに整理する。 【知②】【思②】

小単元名	あたたかい土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①気候などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。	①気候などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。	①我が国の国土の様子と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と記述され、特色ある地域の生活を理解するだけでなく、その環境に適応して生活していることを理解することが求められている。
- ②「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」とある。特色ある地域の人々の生活について、人々は地形条件や自然条件をどのように生かしているかなどの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)のエに示された「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げることが明記されている。

### (2) 教材や資料について

- ①児童が「人々は自然環境に適応して生活している」ことを理解できる事例地として、本小単元では気候を生かした産業や観光が盛んな沖縄県を取り上げる。我が国の気候の特色である桜前線や海開きなどは、児童の驚きを引き出しやすく、独自の文化は観光に生かされ、多くの人に親しまれている。
- ②気候に合わせた家づくり、産業ではさとうきびづくりや菊づくりを取り上げる。社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせて、菊づくりが他の地域での出荷が落ち込む時期に温かさを生かして行われていることや日本有数の観光地で行われている産業という点にも気付かせたい。
- ③気候などに着目して、調べるために、現地の写真資料や統計資料などを準備するとともに、インターネットや現地への聞き取り調査による情報を活用する。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①前小単元の学習を生かすことで特色ある地域の人々の生活を捉える学習問題を設定するとともに、気候などに着目する問いを分かりやすく設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②調べたことを、グループで調べる観点ごとに表に整理して気候の特色と人々の生活や産業の関連を説明し合う活動を設定する。
- ③「まとめる」場面では自然環境と国民生活との関連について、前小単元の事例地と沖縄県の共通点を話し合う活動を取り入れ、人々は様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つかむ	①沖縄県の様子について写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、学習問題を設定し、予想を立て、学習計画を話し合う。	<p>○沖縄県の様子について写真を読み取る。 ◆沖縄県はどのようなところなのだろう。 ○気温と降水量のグラフ、家の様子を読み取る。 ○沖縄県について調べたいことを話し合う。 ・どんな産業が盛んに行われているのか。 ○調べたいことを分類して学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>沖縄県の人々はあたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。</p> </div> <p>○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・きっと暖かさを生かした作物を作っていると思う。 ・たくさんの観光客のためのサービスをしているのではないかな。 ・伝統的なものを生かしていると思う。</p>	<p>◎2月の桜(写真) ◎3月の海開き(写真) ◎那覇と東京の気温と降水量 ◎沖縄県の伝統的な家</p> <p>□地図帳等を使い東京都との違いを意識させる。 【思①】</p> <p>□前小単元の調べた視点を生かす。 【態①】</p>
調べる	<p>②沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かし、農業を行っていることを理解する。</p> <p>③沖縄県の人々は、冬のあたたかさを生かして産業を営んでいることを理解する。</p>	<p>◆どのように産業に生かしているのだろう。 ○沖縄の特産物について話し合う。 ○資料などからさとうきびづくりの仕事を読み取り、調べたことをまとめる。 ・強い風や日差しに強い。 ・県全体の3分の1もの面積を使って栽培している。</p> <p>◆どのように産業に生かしているのだろう。 ○産業を行う上で、冬でも暖かいことの良さを話し合う。 ○資料などから菊づくりの仕事を読み取り、調べたことをまとめる。 ・電灯で咲く時期を調整している。 ・県外で生産の減る冬の時期に出荷している。</p>	<p>◎沖縄県の主な農産物の作付面積 ◎さとうきび農家の人の話 ◎沖縄島とその周辺の土地利用 □沖縄県の料理の写真などを使い特産物を話し合う。 【知①】</p> <p>◎東京都の市場で取引される小菊の数 ◎菊づくり農家の人の話 □気候について克服しなければならない課題があることも考えさせる。 【知①】</p>
まとめる	⑥沖縄県の人々のくらしや産業の様子について、今まで調べてきたことを表にまとめ、学習問題について話し合い、自分の考えを表現する。	<p>◆沖縄県の人々はあたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろうか？ ○調べたことを表にまとめる。 ○学習問題に対する自分の考えを表現する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・沖縄県の人々は、夏の暑さや台風からくらしを守る工夫をしたり、一年を通してあたたかい気候を生かす産業を工夫したりするなど、沖縄県の自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしている。</p> </div> <p>○前小単元の事例地の人々と沖縄県の人々の生活で共通していることについて表を見ながら話し合う。 ・どちらの地域の人々も自然環境に合わせて生活をしている。</p>	<p>□調べたことを表に整理する。 【思②】 【知②】</p> <p>□話し合いを通して、人々が様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにする。</p>

小単元名	寒い土地の暮らし	配当 6時間	内容 (1) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	----------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①気候などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。	①気候などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。	①我が国の国土の様子や国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	②特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること」と記述され、特色ある地域の生活を理解するだけでなく、その環境に適応して生活していることを理解することが求められている。
- ②「地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること」とある。特色ある地域の人々の生活について、人々は地形条件や自然条件をどのように生かしているかなどの問いを設けて調べさせるとよい。
- ③内容の取扱い(1)のエに示された「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件(山地や低地)や気候条件(温暖多雨や寒冷多雪)から見て特色ある地域の中からそれぞれ一つ取り上げることが明記されている。

### (2) 教材や資料について

- ①児童が「人々は自然環境に適応して生活している」ことを理解できる事例地として、本小単元では気候を生かした産業や観光が盛んな北海道名寄市を取り上げる。名寄市の気候の特色を表している雪質日本一フェスティバルや小学校のスキー授業などは、児童の驚きを引き出しやすい。また、アイヌ民族の文化を通して、人々は昔から自然環境に適応して生活していたことにも気付かせたい。
- ②気候に合わせた家づくり、産業ではアスパラガスづくりや観光業を取り上げる。社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせて、アスパラガスづくりが昼夜の寒暖差を生かして行われていることや、利雪親雪という考えのもと、気候を観光業にも生かしていることに気付かせたい。
- ③気候などに着目して、調べるために、現地の写真資料や統計資料などを準備するとともに、インターネットや現地への聞き取り調査による情報を活用する。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①前小単元の学習を生かすことで特色ある地域の人々の生活を捉える学習問題を設定するとともに、気候などに着目する問いを分かりやすく設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②調べたことを、グループで調べる観点ごとに表に整理して気候の特色と人々の生活や産業の関連を説明し合う活動を設定する。
- ③「まとめる」場面では自然環境と国民生活との関連について、前小単元の事例地と名寄市の共通点を話し合う活動を取り入れ、人々は様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
	①写真や気温と降水量のグラフの読み取りから、名寄市の様子について理解する。	○名寄市の様子について写真を読み取る。 ・とても多くの雪が積もっている。 ・お祭りや体育の授業にも雪が使われている。 ◆名寄市はどのようなところなのだろう。 ○気温と降水量のグラフ、市内や家の写真から名寄市の様子を読み取る。 ・名寄市は北海道の北部にある。 ・冬は平均気温がマイナスになっている。 ・通りや家に雪に備えた工夫がある。 ・名寄市の人々は、どんな生活をしているのだろう。	◎なよろ雪質日本一フェスティバル(写真) ◎小学校のスキー授業(写真) □地図帳で位置を確認する。 ◎名寄市と東京の気温と降水量 ◎上川地方の無落雪の家 ◎縦長の信号機・流雪溝(写真) □東京都との違いを意識させる。 【知①】
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○調べたいことを分類して学習問題を設定する。  名寄市の人々は、きびしい寒さや気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろう。  ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・きっと気候を生かした作物を作っていると思う。 ・たくさんの雪は観光にも生かされていると思う。	□カード化して分類する。 【思①】  □前小単元の調べた視点を生かす。 【態①】
調 べ る	③名寄市の人々は、特徴的な気候な気候を生かし、農業を行っていることを理解する。	◆どのように産業に生かしているのだろう。 ○名寄市の特産物について話し合う。 ○資料などからアスパラガスづくりの仕事を読み取り、調べたことをまとめる。 ・盆地の広く平らな土地を利用してつくっている。 ・夏の昼夜の寒暖差を利用してつくっている。 ・特徴的な気候は他の農作物づくりにも生かされている。	◎JAなよろ道北のホームページ ◎名寄市と東京の気温 ◎JAなよろ道北の人の話 □農業と自然条件を関連付けて考えさせる。 【知①】
	④名寄市の人々は、特徴的な気候を生かし、観光業を営んでいることを理解する。	◆どのように観光に生かしているのだろう。 ○名寄市で行われている気候を生かした取組を調べる。 ・雪を利用して国際雪像彫刻大会が開かれている。 ・スキーやカーリングなどのウィンタースポーツが盛ん。 ○名寄の冬を楽しく暮らす条例を調べることを通して、気候との関連について話し合う。 ・利雪親雪にかかるまちづくりを目指し、冬にも観光に来てくれるよう工夫や努力をしている。	◎なよろ雪質日本一フェスティバル(写真) ◎スキージャンプ・カーリング(写真) ◎名寄の冬を楽しく暮らす条例 □自然条件だけではなく人々の工夫や努力にも着目させる。 【知①】
	⑤アイヌの人々の伝統的な文化やそれを引き継ぐ努力について理解する。	◆北海道の人々は、昔から自然を生かした生活をしていただろうか。 ○アイヌの人々の自然を生かした文化について調べる。 ・先住民族であるアイヌの人々は、自然を生かして気候に適応した生活をし、ロシアなどと交易をしていた。 ・アイヌの人々は、自分たちが受け継いできた文化のよさを多くの人に理解してもらおうと、引き継ぐ努力をしている。	◎アイヌの人々の伝統文化(写真) (衣服・食事・住居・踊り) □北海道の位置から、周辺の国々との関係について地図帳で確認する。 【知①】
ま と め る	⑥名寄市の人々のくらしや産業の様子について、今まで調べてきたことを表にまとめ、学習問題について話し合い、自分の考えを表現する。	◆名寄市の人々はきびしい寒さや気候をどのようにくらしや産業に生かしているのだろうか。 ○調べたことを表にまとめる。 ○学習問題に対する自分の考えを表現する。  ・名寄市の人々は、きびしい寒さからくらしを守る工夫をしたり、特徴的な気候を生かす産業を工夫したりするなど、名寄市の自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしている。  ○前小単元の事例地の人々と名寄市の人々の生活で共通していることについて表を見ながら話し合う。 ・どちらの地域の人々も自然環境に合わせて生活をしている。	□調べたことを表に整理する。 【思②】【知②】  □話し合いを通して、人々が様々な自然環境に適応して生活していることを理解できるようにする。

小単元名	くらしを支える食料生産	配当 6時間	内容(2)アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	-------------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、食料生産の概要について考え、表現している。 ②種類や生産量、生産の盛んな地域の分布などを総合したり、食料生産と国民生活を関連付けたりして、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	①我が国の食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)を基にした「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、「食料の生産地」を取り上げ、我が国では様々な食料を生産していること、それぞれの土地や気候を生かして食料の生産地が営まれているなどの食料生産の概要について扱うことが示されている。
- ②食料生産は国民の食生活を支えていることや、食料の生産量は、国民生活と関連して変化し、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを基に、我が国の食料生産の役割について理解することが示されている。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれたり、国民の食料を確保する重要な役割を果たしたりしている」ことを理解できるように食料の事例として、児童が身近に感じられる給食の献立のご飯と豚汁、果物について取り扱う。これらの食材を取り扱うことで、主食として重要な役割である米、野菜、果物、肉のそれぞれが、季節や気候、土地の特色や違いなど、自然条件を生かして生産が営まれていることを捉えられるようにする。また、国内の主な生産地や輸入相手国の位置についても取り扱う。
- ②「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して食料生産の概要を捉える」ために、統計資料や写真資料などを準備するとともに、地図帳や地球儀などを用いて調べるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「食料生産の概要を捉え」る学習問題や「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わり」に着目する問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②生産物の分布や輸入など外国との関わりを捉えられるように、個人で白地図（日本地図・世界地図）に米・野菜・畜産物・果物のそれぞれの生産額の順位に色分けして表現する。それぞれの地図を用いて話し合うことで学習問題に対する考えを書く。
- ③外国との関わりでは、我が国の日本の農産物の生産額の変化や食料自給率を調べる活動を通して、外国とのかわりも総合して食料生産の概要を理解できるようにする。



### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つ か む	①わたしたちが食べている食料品の産地を調べ、学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○給食の献立の材料や種類ごとの産地について調べる。 ◆給食の食材の産地はどこなのだろう。 ・給食で食べているものは色々なところからきている。 ○給食で食べている材料の生産額上位3位の産地を調べ、地図に表し、学習問題を設定する。 ・北海道で作られているものが多いけれど、他の県でも作られている。何かひみつがあるのではないかな。	◎給食の献立表 ◎食材の生産額ランキング表 ◎日本の白地図 □外国から輸入されているもの食料品も取扱い、外国との関わりについても確認する。 【思①】
		わたしたちの食生活を支えているさまざまな食べ物の主な産地は、どのようなところなのだろう。  ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・きっと地形や気候など自然条件を生かしているのではないかな。米・野菜・果物・畜産の産地は、どのようなところなのだろう。 ・きっと外国から輸入もしている。輸入は、どのようなところからされているのだろう。	□これまで学習してきた国土の地形や気候の特色を想起させる。 【態①】
調 べ る	②米の主な産地や地域の特色について調べ、理解する。	○一人一人が持参した米袋の産地を調べる。 ◆米の主な産地は、どのようなところなのだろう。 ○資料などから米の生産が盛んな地域を日本地図に表現したり、その地域の土地や気候などの特色を調べたりする。 ・日本海側の方が米の生産が盛んだ。 ・自然条件が生かしているんだ。	◎各自が持参した米袋 ◎米の生産額ランキング表 ◎日本の白地図 □生産額によって日本地図に表現する色を変え、表現する。 【知①】
	③野菜の主な産地やその産地の特色について調べ、理解する。	◆野菜の産地は、どのようなところなのだろう。 ○資料などから野菜の生産が盛んな地域を日本地図に表現したり、その地域の土地や気候などの特色を調べたりする。 ・それぞれ産地が違い、自然条件を生かしている。	◎野菜(じゃがいも・ごぼう・にんじん・大根)の生産額ランキング表 ◎日本の白地図 【知①】
	④果物や畜産の主な産地やその産地の特色について調べ、理解する。	◆果物や畜産の産地はどのようなところなのだろう。 ○資料などから果物や畜産の生産が盛んな地域を日本地図に表現したり、その地域の土地や気候などの特色を調べたりする。 ・果物と畜産も野菜と同じでそれぞれ産地が違う。	◎果物(りんご・みかん)、畜産(豚肉)の生産額ランキング表 ◎日本の白地図 【知①】
	⑤外国との関わりについて調べ、輸入が果たしている役割について理解する。	○資料などから日本の食料自給率の変化や輸入量について読み取る。 ・日本は、自国だけでなく、輸入をしている。 ◆輸入は、どのようなところからされているのだろう。 ○これまで調べてきた農産物の輸入量について話し合う。 ・輸入は、いろいろな国からされている。 ・輸入先の国も自然条件が関係している。	◎日本の農産物の生産額の変化 ◎品目別自給率の変化 ◎食料品別の輸入量の変化 ◎食料品輸入の世界別の生産額ランキング ◎世界地図 【知①】
ま と め る	⑥今まで調べた産地の様子について話し合い、学習問題の結論を自分の言葉でまとめる。	◆わたしたちの食生活を支えているさまざまな食べ物の産地は、どのようなところなのだろう。 ○今まで調べてきた日本地図や産地の特色を基に、共通点や相違点について話し合う。 ○学習問題の結論を自分の言葉でまとめる。  ・わたしたちの食べている食料品の主な産地では、その土地の自然条件を上手く生かしてつくられていることが分かった。また、外国から輸入されているものもあった。日本各地でつくられたり外国でつくられ輸入されたりするから、給食や家で毎日の食事ができる。	□各地のそれぞれの自然条件を生かしていることに気付かせる。 【思②】【知②】

小単元名	米づくりのさかんな地域	配当 8時間	内容 (2) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の農業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、農業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、農業の発展について考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、農業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、農業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	①我が国の農業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして良質な農作物を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解している。	②農業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて農業に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、農業の課題について、消費者や生産者の立場から多角的に考え、これからの農業の発展について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

①小単元は、内容(2)我が国の農業や水産業における食料生産に関する内容で構成したものである。

ここでは、「食料生産に関わる人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係が食料生産を支える働きをしていることを扱うことが示されている。

②内容の取扱い(2)のイに示された「これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元末の「いかす」段階で、児童が日本の農業の課題を把握した上で生産者や消費者などの立場から多角的にこれからの農業についての考えをもてるようにすることを意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

①児童が「食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、食料生産を支えている」ことを理解できる事例地として、本小単元では昔からコメ作りが盛んで、耕地整理や品種改良による食味ランキング特Aの米を長年輩出している庄内平野を取り上げる。

②統計資料などを準備し、インターネットや聞き取り調査による情報を活用するなど社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせて、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用に着目して食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉えるようにする。

③消費の減少や高齢化など農家の悩みや農業の課題と出合わせて農業の未来に関心がもてるようにし、消費者と協力して行う共同栽培米の推進、食料を作り・加工し・販売する6次産業化による収入の増加や雇用の確保などの新たな取組を調べ、一人一人が農業の未来について考えることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

①調べたことを説明し合い、学級で消費者、生産者、生産に関係する人々の取組をつなげて関係図にまとめる。

②学習問題の結論をまとめる中で農家の悩みや日本の農業の課題に気付かせ、日本の農業の未来を考える「いかす」段階を設定し、現在進行形で新たな取組を進めている人々をモデルに考え、意見交換する学習活動を設定する。

### 3 小単元の指導計画（8時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される児童の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点◎資料 【評価】）
つかかむ	①米作りが盛んな庄内平野の地形や気候など自然の特色を理解する。	○食味ランキングと10a当たりの生産量から米作りの盛んな場所について調べる。 ◆米作りが盛んな庄内平野はどのようなところなのだろう。 ○庄内平野について調べたいことを話し合う。 ・なぜ米作りが盛んなのか知りたい。	◎米の食味ランキング一覧 ◎10a当たりの生産量 ◎米の生産量の日本地図 ◎庄内平野と岡部さんの写真 【知①】
	②調べたいと思ったことを整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○調べたいことを分類して学習問題を設定する。 庄内平野でおいしいお米を作り続ける○○さんはどのように米作りをしているのだろう。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・きっと自然と関係がある。自然をどう生かしているのか。 ・きっと様々な工夫をしている。どのように作っているのか。 ・一人では難しそうだ。どのような人が協力しているのか。 ・庄内米は東京でも売っている。どのように運ばれていくのか。	□カード化して分類する。【思①】 □3年の生産や4年の特色ある地域の学習を想起するなどして調べる見通しをもてるようにする。 【態①】
調べる	③豊かな自然を背景に米作りが営まれていることを理解する。	◆米作りにどのように自然が生かされているのだろう。 ○資料から米作りに関連する地形や気候の自然条件を読み取り、調べたことを確かめ合う。 ・広くて平らな土地と豊かな水が米作りに適している。 ・夏の気温が高く日照時間が長い気候が影響している。	◎土地利用図と耕地面積の割合 ◎気温と日照時間の統計資料 ◎雪解け水に関する文章資料 □自然条件と関係付けさせる。 【知①】
	④お米ができるまでの1年間の仕事を調べカレンダーにまとめる。	◆岡部さんはどのようにお米を作っているのだろう。 ○資料などから米づくりの1年間の仕事を読み取り、米作りカレンダーに調べたことをまとめる。 ・1年間に様々な仕事があってお米作りは時間がかかる。 ・水の管理など収穫まで休みなく仕事をしている。	◎稲の生長と稲作作業の写真 ◎作業の説明する岡部さんの話 □情報を整理しやすいようにワークシートを活用する。 【知①】
	⑤農家とJAや農業試験場が協力して米づくりに取り組んでいることを理解する。	◆米作りにはどのような人々が関わっているのだろう。 ○農家が相互に協力して米作りをしている様子を調べる。 ・共同で機械を購入したり農薬をまいたりしている。 ○農家の米作りを支える人々に聞き取りをして調べる。 ・JAや農業試験場などの関係機関が支援をしている。 ・様々な人の協力により農家の米作りが行われている。	◎農業機械の所有台数の変化 ◎ヘリコプターでの農薬散布 ◎岡部さんの共同作業の話 □JAなどにメールやFAXで聞き取り調査をする。 【知①】
	⑥お米が生産地から消費者に届くまでを調べ、価格と費用の関係を理解する。	◆お米はどのように運ばれて売られているのだろう。 ○米の収穫のあとの行き先を調べて流れ図にまとめる。 ・収穫→カントリーエレベーター→トラック→消費地 ○販売価格になるまでにかかった費用を調べる。 ・生産にかかる費用だけでなく輸送や販売の費用も必要。 ・だからたくさんの方が協同して米を作るんだ。	◎カントリーエレベーター資料 ◎庄内平野から主な消費地までの経路が分かる日本地図 ◎米の価格に含まる費用 □米の流れ図にまとめさせる 【知①】
まとめる	⑦調べたことについて関係図に整理し、学習問題の結論を自分の言葉で説明する。	○調べたことを様々な立場でつなげて関係図を作成する。 ◆米の生産はどのような工夫や努力によって支えられているのだろう。 ・私たちが食べているお米は、農家や米の生産や輸送に関わる人々が協力し、おいしく安全にたくさん作る工夫や努力を通して生産され、お店まで届けられて売られている。 ・岡部さんはがんばっているけど、米作りの悩みもある。	□取組を関係図に整理する。 【思②】【知②】 ◎消費量と生産者人口の減少
いかす	⑧新しい農業の取組について調べ、立場を選択して農業の未来について自分の考えまとめて伝え合う。	○農業に関わる人々や消費者の新たな取組を資料から読み取り、まとめて作成した関係図に加筆する。 ◆農業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。 ○関係図の中での立場を明確にして、農業が未来に続いていくための自分の考えをノートに書き発表し合う。 ・消費者が質のよい米を選べば、農家の人たちが作りたいたいと思うお米が作れるようになり、元気が出ると思う。	◎共同経営や法人化の取組資料 ◎6次産業の取組に関する資料 ◎消費を増やす工夫の資料 ◎共同開発米の取組資料 □資料に基づいて、立場を選択して考えさせる。 【態②】

小単元名	水産業のさかんな地域	配当 8時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、水産業の発展について、考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	①我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表や文などにまとめ、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど食料生産を支えていることを理解している。	②水産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて、水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、消費者と生産者の立場から多角的に考えて、これからの水産業などの発展について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)を基にした「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関する内容で構成したものである。ここでは、漁師だけでなく、水産業に関連する漁協同組合や水産試験場、食料輸送に携わる人など「食料生産に関わる人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係が食料生産を支える働きをしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱(2)のイに示された「これからの水産業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元末の「いかす」段階で、児童が日本の水産業の課題を把握した上で生産者や消費者などの立場から多角的にこれからの水産業についての考えをもてるようにすることを意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、(中略)食料生産を支えている」ことを理解できる事例地として、本小単元ではかつお漁が盛んで、水産加工団地といった漁港を中心に発展してきた焼津市を取り上げる。また、つくり育てる漁業では、ほたて養殖の発祥地であり、養殖ほたての生産量日本一である青森県の平内町と魚の宝庫と言われる階上町を取り上げる。階上町は、県、市町村、漁業団体、漁業協同組合や漁業者が一体となって栽培漁業で水産業振興するための新しい取組を行い、栽培漁業として全国のモデルやリーダーとしての役割を果たしている。
- ②「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用に着目して食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉える」ために、統計資料などを準備するとともに、インターネットや聞き取り調査による情報を活用する。
- ③水産の発展を考える学習として、高齢化や魚が獲れないなど水産業の悩みや水産業の課題と出合わせて、その解決策を調べる。持続可能な漁業を目指しているなどの取組みや最新の技術でマグロを養殖している事例を特に技術の向上に着目して調べ、それを基に一人一人が水産業の未来に関心をもてるようにする。

### (3) 学習展開と学習活動の工夫

- ①「食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉える」学習問題や「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用」に着目する問い、水産業の未来に目を向ける問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②消費者、生産者、生産に関係する人々の取組をつなげて関連図にまとめ、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考えることができるようにする。
- ③学習問題の結論をまとめる中で水産業の悩みや日本の水産業の課題に気付かせ、現在進行形で新たな取組を進めている事例を調べ、生産者・消費者の両方立場から意見交換する学習活動を設定する。

### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つ か む	①水産物とわたしたちの関わりについて考え、水産業について理解する。	○水産物をどれくらい食べているのかについて調べる。 ・毎日のように水産物を食べている。特に、かつおが多い。 ◆水産物は、どこでどんなものたくさん獲れるのだろうか。 ○日本付近の海流や主な漁港を調べる。 ・日本は水産業が盛ん。 ・かつおは焼津港で多く獲られている	◎給食の献立表 ◎かつおの実物大写真 ◎かつお節の実物 ◎日本近海のおもな漁場とおもな漁港の水あげ量 【知①】
	②水産業に関心をもち、学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○水産業で働く人の数や割合のグラフを読む。 ○主な国の一人1年間当たりの水産物の消費量のグラフを読む。 ○調べたいことや疑問に思ったことを話し合う。  水産業で働く人々は水産物を確保するためにどのような工夫をしているのだろうか。  ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・きっと魚の獲り方を工夫している。どのように魚を獲っているのだろうか。 ・きっと新鮮さを保つ工夫をしている。どのように運ばれ、売られているのだろうか。	◎水産業で働く人の数の変化 ◎主な国の一人当たりの水産物の消費量 【思①】 □二つの資料から疑問を醸成する。  【態①】
調 べ る	③④魚を獲るための工夫について調べ、理解する。	○かつおが回遊する範囲を調べる。 ◆焼津港はどのように魚を獲っているのだろうか。 ○一本釣り漁と巻網漁の資料から魚を獲るための工夫について話し合う。 ・一本釣り漁は、特別な針を使い、素早い冷凍ができ、さしみにむいている。巻網漁は、2隻の船が協力して、大量漁獲ができ、加工品に向いている。	◎かつおが回遊する範囲 ◎一本釣り漁と巻網漁写真資料 ◎一本釣り漁と巻網漁動画資料 ◎一本釣り漁と巻網漁文章資料 □二つの獲り方を比較しながら、工夫を捉えていく。 【知①】
	⑤水産物を消費地に届けるまでの工夫を調べ、理解する。	◆水産物は水あげされてからどのように運ばれて売られているのだろうか。 ○焼津港でのかつおの水あげの後の行き先を調べて流れ図にまとめる。 ・かつお節などの加工物は、加工施設にも運ばれている。 ○販売価格までにかかった費用を調べる。	◎水産加工施設資料 ◎焼津港から主な消費地までの経路が分かる地図 ◎魚の価格に含まれる費用 【知①】
ま と め る	⑦水産業の問題点やそれに対する解決策を調べ、つくり育てる漁業を知る。	◆水産業にはどのような問題点があるのだろうか。 ○資料について調べ、読み取る。 ・制限ができて獲る量は減ってしまった。だから、漁業別の生産量は下がっている。その分、輸入が増えている。 ◆水産業の問題に対してどのような解決策があるだろうか。 ○ほたて貝の養殖業やひらめの栽培漁業について調べ、養殖や栽培漁業の様子、工夫や努力についてまとめる。 ・計画的に生産できる。・資源管理をしている。	◎漁業別の生産量の変化 ◎200海里水域と世界の漁場別に見た漁業生産量 ◎日本の水産物輸入の変化 ◎ほたて貝の養殖のしくみ ◎平内町のほたて貝の生産量 ◎階上町ひらめの資源管理・漁獲量 【知①】
	⑥調べたことについて振り返り、関連図に整理し、学習問題に対する考えをまとめる。	◆水産物の確保は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろうか。 ○これまで調べてきたことを関連図に整理し、交流する。  ・私たちが食べている水産物は、漁師、加工業、輸送に関わる人々が協力し、工夫や努力を通して確保されている。そして、そのような働きによって私たちの食生活は支えられている。	□取組を関連図に整理する。 【思②】 【知②】
い か す	⑧新しい水産業の取組について調べ、これからの水産業の未来について、自分の考えをまとめて伝え合う。	○マグロ漁業の危機に関する資料を読み取る。 ◆水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろうか。 ○近畿大学のマグロ養殖の取組について調べたり、インタビューを紹介したりする。 ○これからの水産業はどうあるべきか考え、話し合う。 ・生産者は、持続可能な生産や資源制限・確保、消費者も水産物を食べ続けられるように食べる量の制限など、様々なことを考えていかなければならないと思う。	◎マグロ漁業の危機 ◎減り続ける太平洋クロマグロ ◎近大マグロ養殖取組の新聞 ◎近大マグロ養殖取組の動画 ◎近畿大学水産研究所澤田教授インタビュー資料 □生産者・消費者など両方の立場から多角的に考えさせる。 【思②】【態②】

小単元名	日本の工業生産と工業地域の特徴	配当 6時間	内容 (3) アの(ア)とイの(ア)
------	-----------------	--------	--------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の工業生産について、工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業製品の概要を理解している。 ②調べたことを白地図、図表や文などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。	①工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見出し、工業製品の概要について考え、表現している。 ②工業製品と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	①我が国の工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元では、内容(3)に「我が国では様々な工業生産が行われていることや国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。」と記述され、工業の種類や工業の盛んな地域のみを学習するのではなく、工業の概要を捉え、工業製品が国民生活の向上に重要な役割を果たしていることや、工業生産が国民生活を支えていることを理解できるようにする。
- ②我が国の工業の種類や生産額、工業の盛んな地域の分布などの情報などの統合については、「工業の種類、工業の盛んな地域」に着目し、我が国の工業の概要を理解できるようにする。また、工業製品の改良と国民生活の向上との関連については、身の回りの工業製品の改良の経過に着目し、その時間的な変化から国民生活が向上してきたことを考えられるようにする。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「我が国では様々な工業生産が行われ、工業の盛んな地域が広がっていること」を理解できるようにするため、「工業の種類や生産別生産額、工場の規模別数や割合(グラフ)」「工業地帯や主な工業地域の分布(地図)」を資料として活用する。また、「工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていること」を理解できるようにするため、「自動車、テレビ、炊飯器、掃除機、電話機などの身近な工業製品の改良の経過」を資料として活用する。
- ②「我が国の工業生産が国民生活に果たす役割」について考えるために、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせて、身の回りの工業製品の改良の経過に着目して調べることで、工業製品の改良と国民生活が向上してきたことを関連付けて考えられるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①工業の概要を捉える学習問題や工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良に着目する問い、工業の発展に目を向ける問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②工業製品の経過については、身近な生活で使う工業製品(自動車、テレビ、炊飯器、掃除機、電話機など)を取り上げ、一人一人が選択して調べる。調べたことを共有することで工業製品の改良による利便性の向上に気づき、国民生活との関連について話し合い、国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。
- ③調べたことを説明し合い、学級で地図などに工業の種類や盛んな地域をまとめたものをグループで整理し、我が国の工業生産が国民生活に果たす役割について話し合い、学習問題に対する自分の考えを書く。

### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①工業製品の移り変わりや工業の種類と製品について調べることを通して学習問題を設定する。	○身の回りの工業製品の変化について調べる。 ◆私たちの身の周りの工業製品はどのように変わってきたのだろう。 ・工業製品は昔に比べてすごく便利になっている。 ・生活の中だけではなく、産業にも生かされている。 ○農業や水産業の盛んな地域の特色を振り返り、疑問を出し合い、工業生産についての学習問題を設定する。 ・米の生産地は東北地方に多いが、工業はどの地域が盛んなのだろう。 ・工業製品はどのように変化してきたのだろう。 ・工業製品はどこでどのようなものがつくられているのだろう。  日本の工業製品は、どこでどのようなものがつくられ、どのように変化してきたのだろう。	□工業製品の意味を確認する。 ◎生活の中にある工業製品の变化(自動車・炊飯器・掃除機) ◎産業の中で生かされている工業製品 □農業や水産業の特色を生かして工業の盛んな地域に目を向けさせる。  【思①】
	②学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。	○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・日本の工業は、どのような種類が盛んなのだろう。 ・工業の盛んな地域がどのように広がっているのだろう。 ・工業製品はどのように改良されてきたのだろう。	□国土の特色やこれまでの産業を根拠にしなが予想させ、学習計画を整理する。  【態①】
調べ	③工業の種類や種類別生産額、工場の規模別数や割合について理解する。	◆日本ではどのような工業が盛んなのだろう。 ○資料から工業の種類や種類別生産額、工場の規模別数や割合について調べ、工業生産の特色を話し合う。 ・工業はつくられる製品によってさまざまな種類に分類されている。 ・工場の規模によって特色を生かして生産している。	◎工業の種類や種類別生産額 ◎工場の規模別数や割合 □それぞれの資料を関連付けながら、日本の工業の特色について話し合わせる。  【知①】
	④国土には工業の盛んな地域が広がっていることを理解する。	◆工業の盛んな地域はどのように広がっているのだろう。 ○工業地帯や工業地域の分布について調べ、工業の広がりや位置などの特徴について話し合う。 ・工業の盛んな地域は、海沿いや交通が発達している内陸地域にある。	◎工業の盛んな地域(地図) ◎工業の種類別の生産額の割合 □工業の広がりについて話し合う際、地理的な特徴に目を向けられるようにする。  【知①】
る	⑤工業製品の改良が国民生活の向上につながっていることについて理解する。	◆工業製品は、どのように改良されてきたのだろう。 ○工業製品の普及率や工業製品ごとの改良の経過について調べる。 ・中小工場などの努力によって品質が向上し、多くの工業製品が使われるようになった。 ○工業製品の改良と国民生活の関連について話し合う。 ・工業製品が改良されてくるにつれて、私たちの暮らしが便利になってきた。	◎工業製品の普及率の変化 ◎工業製品の改良の経過(自動車・テレビ・炊飯器など) □工業製品を一人一人が選択して調べて共有することで工業製品の改良による利便性の向上に気付かせる。  【知①】
まとめ	⑥調べたことについて地図に整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめる。	◆日本の工業生産は、どこでどのように行われ、どのように変化してきたのだろう。 ○調べたことを地図に位置付けて整理する。 ○工業生産と国民生活との関わりについて話し合う。  ・我が国では様々な種類の工業生産が行われ、全国各地に工業の盛んな地域が広がっている。工業製品の改良が繰り返され、国民生活の向上に重要な役割を果たしている。	□工業生産の概要から工業生産が国民生活に果たす役割について考えるようにする。  【思②】【知②】

小単元名	自動車をつくる工業	配当 8時間	内容(3)アの(イ)及び(エ)とイの(イ)
------	-----------	--------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の自動車工業について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車工業に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、工業生産の発展について考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて、地図帳や地球儀など資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、工業生産に関わる人々の工夫や努力について理解している。	①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて着目して、問いを見出し、工業生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	①我が国の自動車工業の生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解している。	②工業生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、工業生産に関わる人々の働きを考えたり、これからの工業の発展について考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、消費者や生産者の立場から多角的にこれからの工業生産の発展について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(3)「我が国の工業生産」に関する内容で構成した単元である。事例として、金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から取り上げることが示されている。
- ②内容の取扱い(3)のイに示された「工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。」については、単元末の「いかす」段階で、日本の工業が果たす役割について考え、生産者や消費者などの立場から多角的にこれからの工業生産の在り方についての考えを児童一人一人がもてるようにすることを意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えている」ことを理解できるようにする。事例地として、本小単元では、世界からも高い評価を受け、自動車生産台数が日本一である愛知県豊田市を取り上げる。
- ②内容の取扱い(3)アに示された「金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つ取り上げること」と明記され、第3学年の「地域に見られる生産の仕事」とのねらいの違いを意識し、我が国の工業生産についての理解を深めることが求められている。

### (3) 学習展開や学習指導の工夫

- ①調べたことを説明し合い、学級で消費者、生産者、生産に関係する人々の取組をつなげて関係図にまとめる。
- ②学習問題の結論をまとめる中で調べてきたことを基に工業生産と国民生活との関わりについて考え、これからの日本の工業の発展を考える「いかす」段階を設定し、意見交換する学習活動を設定する。



### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つかむ	①日本の自動車が世界の様々な国で乗られていることを理解する。	○日本の自動車が世界で使われている理由を考える。 ◆日本の自動車は世界でどれくらい乗られているのだろう。 ○日本の自動車は世界でどれくらい売れているのか調べる。 ・世界中で日本の自動車がたくさん売れている。 ・地域によって売れている自動車メーカーが違う。	◎海外で走る日本車(写真) □優れた製品に着目できるような以下の資料を示す。 ◎世界各国で最も売られている自動車ブランド 【知①】
	②豊田市の自動車工場で作られている自動車の生産台数を基に、学習問題を設定する。	◆自動車工業が盛んな豊田市はどのようなところだろう。 ○豊田市の自動車工場の周りの様子について調べる。 ○自動車工場での生産台数や部品数、ラインで作られる車種の数について調べる。 ○疑問や考えを出し合い、学習問題を立てる。	◎豊田市の自動車工場の概要 ◎豊田市の自動車関連の工場で働く人の割合 ◎一台の部品数・一つのラインで作られる車種数 【思①】
	③学習問題に対する予想を整理し、学習計画を立てる。	○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・評価の高い自動車をどのようにつくっているのだろう。 ・多くの部品はどのようにつくっているのか。 ・評価が高い自動車をどのように研究や開発をしているのか。	□製造の工程、関連工場、研究開発の視点で、学習計画に整理する。 【態①】
調べる	④自動車工場の生産における工夫や努力について理解する。	◆自動車工場ではどのように自動車をつくっているのだろう。 ○自動車工場での生産の工程を調べ、働く人がどのようなことを考え生産しているか話し合う。 ・人やロボットが作業を分担して効率よく作っている。 ・多くの部品や複雑な工程をミスなく正確に行っている。	◎自動車工場の生産工程の様子 ◎産業用ロボット ◎組み立てラインの人の話 □作業の効率化や正確性の工夫に気付かせる。 【知①】
	⑤関連工場の部品生産の工夫や努力や自動車工場とのつながりについて理解する。	◆関連工場ではどのような部品をつくっているのだろう。 ○自動車工場と関連工場のつながりや部品の生産について調べ、それぞれの役割や特徴について話し合う。 ・高い技術で、正確に細かな部品を生産している。 ・関連工場と役割分担し品質の高い自動車を生産している。	◎自動車工場と関連工場の位置 ◎専用の部品をつくる人の話 ◎自動車工場と関連工場のつながり □小さな部品を作る高い技術に着目させる。 【知①】
	⑥自動車開発について調べ、社会の問題とのつながりについて理解する。	○研究開発の変遷を調べ、本時の問いをつかむ。 ◆自動車はどのように開発されているのだろう。 ○自動車の研究開発の取組について調べ、開発者の思いや願いについて話し合う。 ・消費者のニーズや社会の問題を解決するために、世界中でも高い性能の自動車を研究開発している。	◎自動運転システム・ハイブリットカー ◎研究開発の取組 ◎高齢者の死者数・地球の気温の推移 □消費者の需要や社会の変化に対する技術の開発に着目させる。 【知①】
まとめる	⑦調べたことについて関係図に整理し、学習問題について話し合い考えをまとめる。	○調べたことを関連図にまとめ、相互の関係について話し合い、学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ◆日本の自動車工業はどのように自動車をつくっているのだろう。 ・日本の自動車工業は、環境、安全、バリアフリーなどの社会の変化や消費者の需要にこたえるために高い技術を生かして、様々な工夫や努力をしながら、世界でも評価の高い自動車を生産している。	□取組を関係図に整理する。 【思②】 【知②】
いかす	⑧新たな自動車工業の取組について調べ、立場を選択し、これからの自動車工業の在り方について、自分の考えをまとめ、話し合う。	○研究開発費について調べる。 ◆日本の自動車工業は、なぜこんなにもお金をかけて研究開発を行っているのだろう。 ○自動車工業と私たちの生活との関連やこれからの自動車工業の在り方について話し合う。 ・消費者のニーズや社会の変化に応じて、生産者がより良い製品をつくり続ける工業は、わたしたちの生活の向上に役立っている。	◎自動車産業とその他の企業の研究開発費 ◎研究開発の新たな取組 □消費者と生産者の立場などから考え、自動車工業が国民生活を向上させていることに気付かせる。 【思②】 【態②】

小単元名	工業生産を支える貿易や運輸	配当 6時間	内容 (3) アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)
------	---------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

貿易や運輸について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通網の広がり、外国との関わりなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。	①交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、貿易や運輸の様子について考え、表現している。 ②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて、貿易や運輸の役割を考え、適切に表現している。	①貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(3)「我が国の工業生産」に関する内容で構成したものである。ここでは、「貿易や運輸の様子」を取り上げ、交通網の広がり(特に海運)、外国との関わりが原材料の確保や製品の販売などにおいて工業生産を支える重要な働きをしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(3)のイに示された「これからの工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元末「まとめる」段階で、児童が運輸や貿易が日本の工業生産に果たしている役割を捉えた上で、世界の国々とのよりよい貿易のあり方について考える場面を設けるように意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせて地図や統計資料、インターネットによる情報を活用して、貿易や運輸の様子を捉えられるようにする。
- ②日本の貿易において海運が占める貿易量の割合は99.7%とほとんどの積み荷が船によって運ばれている。そこで、原材料の確保や製品の販売など工業生産を支える重要な役割を果たしている様子を的確に捉えられるようにするために、欧米諸国に運んでいる自動車運搬船や、原油などの原材料を運ぶタンカーの航程の距離や日数、海運に携わる人の工夫や努力について海運に携わる人々の話を基に調べることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①前小単元「自動車をつくる工業」の学習からの連続性を意識して、自動車の輸送や現地生産の様子、主な輸出先などを調べる活動を通して、工業製品を輸送する様子や貿易の働きについて関心をもち児童が主体的に追究できるようにする。
- ②「調べる」段階においては、我が国における輸出入の様子、運輸の様子について資料を使って調べたことを世界地図にまとめる活動を設定した。世界地図にまとめることで、視覚的に貿易の特色や海に囲まれている日本の地形において海上輸送の働きが大切であることを捉えられるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つかむ	①完成した自動車や、その原材料の輸送の様子を通して、貿易や運輸について理解する。	◆完成した自動車は、どこに届けられているのだろうか。 ○国内では、どこへどのように運んでいるのかを調べる。 ・船やキャリアカーを使って全国に自動車を運んでいる。 ○国外への運び方について疑問を話し合う。 ・大きな船を使って輸送している。約6000台も運べる。 ○自動車の原材料は、どこからどのように運んでいるのかを調べる。 ・プラスチックや燃料になる原油は、中東の国々だ。 ・輸入も船を使って行っているのではないかな。	□「運輸」「輸出」「輸入」の用語の意味を確認する。 ◎自動車専用船とキャリアカーの写真 ◎日本製の自動車の主な輸出先 ◎自動車専用船と自動車搬入の様子 ◎自動車の主な原材料を輸入している国 【知①】
	②疑問を整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○日本の貿易量のほとんどが海運であることを知り、海難事故によって輸出入ができなくなったらどうなるか話し合い、学習問題を設定する。 我が国の工業生産にとって重要な輸出や輸入はどのように行われているのだろうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・輸出や輸入は、どのように行われているのだろうか。	◎日本船主協会の方の話 ◎海難事故の写真 【思①】 【態①】
調べ	③我が国の輸出の特色について理解する。	◆輸出は、どのように行われているのだろうか。 ○主な輸出相手国と輸出品を調べる。 ・アメリカや中国との取引が多い。 ・自動車や精密機械などの工業製品の輸出が多い。 ○我が国の輸出の特色を資料から読み取り、輸出品と貿易相手国とのつながりを白地図にまとめる。	◎主な輸出相手国と輸出品 □世界地図に輸出の主な相手国や輸出品を書き込ませ、日本とのつながりを視覚的に表現させる。 【知①】
	④我が国の輸入の特色について理解する。	◆輸入はどのように行われているのだろうか。 ○工業で製品を作るための原材料や燃料がどこから、どのように運ばれているかを調べる。 ・原材料や燃料のほとんどを輸入が占めている。 ・オーストラリアからは様々な原材料を輸入している。 ○我が国の輸入の特色を資料から読み取り、輸入品と貿易相手国とのつながりを白地図にまとめる。	◎主な輸入相手国と輸入品 □第3時と同様に、世界地図に主な輸入相手国や輸入品を示す。 【知①】
	⑤貿易を支えるための海運の工夫について理解する。	◆日本の貿易を支えるために、海運には何か工夫していることがないだろうか。 ○日本船主協会の方の話を通して、海運に見られる工夫について調べる。 ・船に比べて一度にたくさんの荷物を運べる。 ○マラッカ海峡の航行の様子を通して、海運に見られる工夫について調べる。 ・短い時間で輸送するための航路の選定をしている。	◎日本船主協会の方の話 ◎マラッカ海峡の写真 ◎ヨーロッパへと向かう航路 ◎船長の話 【知①】
まとめる	⑥調べたことについて関係図に整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめる。	◆貿易や運輸は、工業とどのような関係があるのだろうか。 ○小グループで、キーワードをもとに関係図に表し、貿易や運輸と日本の工業の関係を表現する。 ・海運をはじめとする運輸のはたらきは、日本の貿易にはなくてはならないものである。そして、外国から原材料を輸入して、工場生産した製品を海外に輸出するという日本の貿易の特色から考えると、運輸と貿易は、日本の工業を支える重要な役割を果たしている。そして、工業、運輸、貿易は国民生活そのものを支えている。 ○日本の貿易における課題や、その解決策を知り、世界の国々との貿易において大切だと思うことをまとめる。 ・お互いの利益を考え、バランスを考えることが大切だ。	□「国民生活」「工業生産」「運輸」「貿易」の言葉の配置や関係性を考えさせる。 ◎不買運動やそれに対する企業の努力 ◎自由貿易と保護貿易 【知②】【思②】

第1時の資料(つかむ)

資料 自動車の主な原材料の輸入先 日本の自動車の輸出先

◆自動車を作って売るまでに、どのような国々が関係しているのだろうか。

	原油輸入先	鉄鉱石輸入先	天然ゴム輸入先
1	サウジアラビア 35%	オーストラリア 60%	インドネシア 64%
2	アラブ首長国連邦 24%	ブラジル 28%	タイ 32%
3	カタール 9%	カナダ 4%	ベトナム 1%

株式会社帝国書院ホームページより作成

	自動車輸出先
1	アメリカ 38%
2	オーストラリア 6%
3	中国 4%

一般社団法人日本貿易会ホームページより作成

日本と各国との位置関係に着目す

原材料は、いろいろな国から届いているよ。  
自動車の部品にはたくさんの国が関わっているね。

日本から遠いところにも運ばれているよ。  
日本の周りは海だから、船を使っているのかな。

第2時の資料(つかむ)

資料 海運の重要性が分かる資料  
・日本船主協会の方のお話 ・海難事故の写真



【日本船主協会の方のお話】

日本の貿易において、船による輸送が大半を占めるのは、まず日本の地形が大きく関係しています。日本は、四方を海で囲まれており、昔から周りの国と船で、人や物、さらには文化の交流を行ってきました。

そのため、貿易で工業製品や原材料を積んだ大きな船が停まることができる港が様々な場所にあります。海運の動きは、日本の輸出や輸入にとって、とても重要なものになっています。

日本の地理的条件や海運の歴史に着目する。

日本の工業にとって、海運による貿易は欠かせないものだね。



(出典：読売新聞社)

国内の工業や外国との関わりに着目する。

【指導上の留意点】  
海難事故によって、もしも船での輸送ができなくなったらどうなるのかを話し合い、出てきた疑問を学習問題へとつなげる。

物の行き来が止まってしまうと、工業にも影響が出るのではないかな。

【学習問題】  
我が国の工業生産にとって重要な輸出や輸入はどのように行われているのだろう。

## 第5時の資料（調べる）

◆日本の貿易を支えるために、  
海運にはどのような工夫が見られるのだろうか。



### 【日本船主協会の方のお話】

船は、航空機に比べ、1回で積み荷を運べる量が段違いに多く輸送することができます。ジャンボジェット機は、1度に運べるのは、多くても200トン程度です。

しかし、原油を運ぶタンカーや鉄鉱石を運ぶ船になりますと、20万トンもの積み荷を運ぶことができます。

資料 海運の工夫が分かる資料

- ・日本船主協会の方のお話
- ・マラッカ海峡の船舶マップ
- ・貨物船の船長さんのお話

大量輸送における  
コンテナ船の働きに着目する。

船は一度にたくさんの荷物を  
運べるね。



(イメージ図)

世界地図におけるマラッカ海峡の位置に着目する。

どうしてこんな狭い場所をたくさんの船  
が通っているのだろう。

(出典) MarineTraffic (ライブ船舶マップ) : 日本語ページ

<https://www.marinetraffic.com/jp/ais/home/centerx:103.9/centery:1.2/zoom:8>

輸送にかかる時間に着目する。



### 【貨物船の船長さんのお話】

ヨーロッパまで荷物を運ぶまでに約40日間かかります。シンガポールにあるマラッカ海峡は、世界中でも、かなり危ないといわれている難所です。

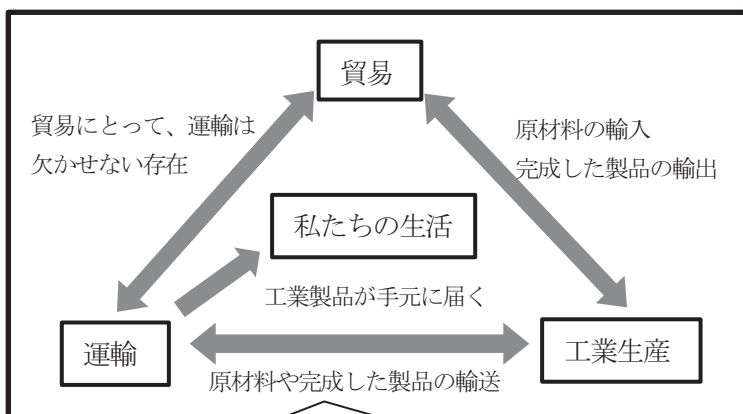
船が各地から集まってきて混み合い、様々な方向へ進むからです。ただ、なるべく短い日数で運ぶためには、このような狭い海峡を通らなければなりません。

早く運ぶための工夫をしているね。

短い時間で運ばれると工場や  
お客さんも助かるね。

## 第6時の資料（まとめる）

◆貿易や運輸は、工業とどのような関係があるのだろうか。



### 【指導上の留意点】

「国民生活」「工業生産」「運輸」「貿易」の4つのキーワードがどのような関係にあるのか関係図に表す。

海運をはじめとする運輸のはたらきは、日本の貿易にはなくてはならないものである。そして、外国から原材料を輸入して、工場で生産した製品を海外に輸出するという日本の貿易の特色から考えると、運輸と貿易は、日本の工業を支える重要な役割を果たしている。そして、工業、運輸、貿易は国民生活そのものを支えている。

小単元名	放送などの産業とわたしたちの暮らし	配当 8時間	内容 (4) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------------	--------	-------------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

放送などの産業について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめ、放送などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送などの産業の様子を理解している。	①情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見出し、放送などの産業の様子について考え、表現している。	①放送などの産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	②放送局から発信される情報と自分たちの生活を関連付け、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。ここでは、「放送、新聞などの産業に関わる人々」を取り上げ、放送、新聞などの産業から発信される情報が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(4)のアで示された「情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること」については、「調べる」段階で報道被害の様子を扱うことで、情報の受け手として、確かな情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに児童が気付くようにする。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が、「放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていること」を理解するために、本小単元では地震発生時の放送局の緊急放送の様子を取り上げる。
- ②放送、新聞などの産業の様子を捉えるために、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関連)を働かせ、「情報収集から放送されるまでの過程の様子」や「新聞のテレビ欄」などを準備するとともに、「模擬緊急放送訓練の様子」や「東日本大震災発生直後の新聞のテレビ欄」も扱うことで、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して放送局の様子について調べることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを捉える学習問題や「放送、新聞などの産業の情報を集め発信するまでの工夫や努力」に着目する問いを設定し、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②「まとめる」場面では調べたことを関連図にまとめる。図の中に視聴者(わたしたち)を書き入れることで、放送、新聞などの産業と国民生活との関わりを児童が理解できるようにする。
- ③「つかむ」場面では「我が国の産業と情報との関わり」に関する二つの小単元のオリエンテーションを行う。情報の入手方法やその特徴について知ることで、児童が学習の見通しをもてるようにする。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つ か む	①身の回りの情報や、それを入手する様々な方法について理解する。	○身の回りにおける情報を入手する方法(情報媒体)について調べる。 ・テレビ ・ラジオ ・新聞 ・インターネット ◆情報を入手する方法には、それぞれどのような特徴があるのだろう。 ○情報の入手方法について、それぞれの特徴を話し合う。 ・テレビは、すぐに情報が手に入るから災害時に便利。 ・それぞれの特徴を生かしているのではないかな。	□情報の入手方法やその特徴について知ることで、児童が学習に見通しをもてるようにする。 □情報媒体にはそれぞれ伝え方・伝わり方に特徴があることに気付かせる。 【知①】
	②東日本大震災発生直後の放送局の災害報道の様子について知る。	◆地震が発生したとき、放送局に視聴者はどのような情報を求めているのだろう。 ○東日本大震災の発生直後のテレビ放送の様子について調べる。 ・予定を変更して地震に関する番組を放送している。 ・どうしてこんなに早く様々な情報を伝えられるのだろう。	◎東日本大震災の発生直後の災害報道の様子 □すぐに放送が始まっていることや様々な情報が集まっていることに着目させる。 【思①】
	③調べたいと思ったことを整理して学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。	○災害報道の様子から疑問を出し合い学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">放送局の人たちはどのようにしてニュース番組をつくり、私たちに送り届けているのだろう。</div> ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・様々な場所からすぐに情報を集める工夫があるのではないかな。 ・放送する情報を決める人がいるのではないだろうか。	□カード化して分類する。 □予想を分類整理しながら学習計画を立てる。 【態①】
調 べ る	④⑤放送局における情報の収集、発信の様子について理解する。	◆放送局が情報を集めてから発信するまでの過程は、どのようになっているのだろう。 ○地震発生直後も放送ができるようにするために、放送局の人がどのような取組をしているか調べる。 ・放送終了後に毎晩緊急放送の訓練を行っている。 ・情報収集のために様々な関係機関と連携をしている。 ○東日本大震災を伝えるニュース番組は、どのようにしてつくられていたのかを調べる。 ・多くの人が関わり、情報の収集、加工、放送と、様々な過程を経て放送されている。	◎模擬緊急放送訓練の様子 □放送に携わる人々の工夫や努力について捉えさせる。 ◎情報収集から放送されるまでの過程の様子 ◎放送局の人の話 【知①】
	⑥⑦放送局における情報の選択・加工の様子について理解する。	◆放送局はどのようなことに気を付けて視聴者に情報を伝えているのだろう。 ○東日本大震災翌日の画面の様子について調べる。 ・放送を見る場所によって、放送の内容が違う。 ○東日本大震災の翌週の新聞のテレビ欄について調べる。 ・予定されていた番組が変更されている。 ・生活情報や安否情報を伝えている。 ○テレビの情報は、わたしたちの生活にどのような影響を及ぼすかを話し合う。 ・情報は放送局によって加工されているので、私たちが放送局から出される情報を選び、判断する必要がある。	◎東日本大震災のL字放送(テロップ)の様子 ◎東日本大震災発生直後の新聞のテレビ欄 □視聴者の生活の様子と番組編成を関連付けて捉えさせる。 □影響の一例として報道被害についても考えさせる。 【知①】
ま と め る	⑧調べたことを関連図に整理し、学習問題の結論を自分の言葉で説明する。	○放送局と視聴者の関わりを関連図に整理し、学習問題に対して考えたことを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・放送局では情報を早く正確に伝えるために様々な工夫や努力を行っている。また、見る人に合わせて伝える情報の内容を変えたりもしている。私たちは必要な情報を選んで、生活に生かすことを大切にしないとイケない。</div>	□関連図に整理し、放送局の取組と国民生活を関連付ける。 【知②】【思②】

小単元名	情報と産業の関わり（観光業）	配当 8時間	内容（4）アの（イ）及び（ロ）とイの（イ）
------	----------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え、表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容（4）の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。事例としては、魅力ある地域の観光資源について情報を発信して地域の活性化に努めている観光業を中心に取り上げている。具体的には、「大量の情報や（中略）国民生活を向上させていることを理解すること」と記述され、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術（インターネットやビッグデータ、SNSなど）を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い（4）のイに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で児童が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるよう指導することが大切である。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、魅力ある地域の観光資源について情報を発信して地域の活性化に努めている観光業を取り上げる。
- ②観光地の観光情報を観光クラウドにまとめ発信していることを調べる。観光クラウドは、自治体のオープンデータ、地域の話し合いによるモデルルート、観光地の飲食店などの情報などの大量の情報を蓄積し、利用者に適した情報を提供するものである。
- ③インターネット内の情報は、マスメディアから発信される情報より精査されておらず、誤った情報が大量にあることを取り上げる。社会的事象の見方・考え方（時期や時間の経過、比較）を働かせて、適切な情報を見極めることの大切さを理解した上で、情報活用の在り方について児童が考えをまとめることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①青森県五所川原市は、東日本大震災の影響で観光客数が減ったが、観光クラウドを活用することで観光客数が増えたことから、学習問題を設定する。
- ②「いかす」段階では、観光業以外の産業の情報活用を調べ、類似点をまとめる。次に、インターネットの情報よりマスメディアの情報の方が利用者から信頼されている理由を考える。そして、自分もインターネット上で、より不確かで誤った情報を発信してしまう可能性があることをつかみ、情報活用の在り方について考えたことを意見交換する学習活動を設定する。



### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つかかむ	①情報通信機器を利用して様々な情報を集めていることを理解する。	○旅行に行く時、どのような情報が欲しいか考える。 ・旅行先の情報 ・天気 ・宿泊先の情報 ・行き方 ◆私たちは旅行する時、情報通信機器を利用してどのような情報を集めているのだろう。 ○情報通信機器を利用して収集する情報の種類を調べる。	□情報通信機器とは、インターネットを使用して通信できる機器であることをおさえる。 ◎旅行先について調べたこと(表) 【知①】
	②青森県五所川原市の観光客数が増えたことから、学習問題を設定し、予想を考え学習計画を立てる。	◆青森県五所川原市にはどんな観光資源があるのだろう。 ○青森県五所川原市について調べる。 ○五所川原市の観光客数の推移を基に学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">観光に関わる人たちは、観光クラウドを活用して、どのように観光を発展させているのだろう。</div> ○予想を考え、学習計画を立てる。 ・どのような情報を集めているのだろう。 ・集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ・どの地域が観光クラウドを活用しているのだろう。	◎日本地図、青森県の地図 ◎五所川原市のホームページ ◎五所川原市観光客数推移(グラフ) □五所川原市が観光客数増加のために観光クラウドを活用したことを学習問題につなげる。 □観光クラウドとは、地域情報をインターネットを通じて集積し発信するものであることをおさえる。【思①】【態①】
調べる	③自治体や地域住民が観光クラウドに情報を発信していることを理解する。	◆観光クラウドには誰からどのような情報が発信されるのだろう。 ○自治体や地域住民の情報発信について調べる。 ・市が保管している地域情報をオープンデータ化し、提供している。	◎五所川原市役所や地域の方の話 □オープンデータ化とは、自治体が保有する情報を民間で二次利用できることをおさえる。【知①】
	④観光にかかわる人たちは観光クラウドの情報を活用し、観光客の観光の手伝いをしていることを理解する。	◆観光クラウドの情報をどのように活用しているのだろう。 ○「Myルートガイド」について調べ、「Myルートガイド」を活用することのよさについて話し合う。 ・Myルートに追加すると周遊ルートが自動で作成される。 ・観光客は、本などでは分からなかった魅力ある観光資源を知ることができ、観光ルートの選択肢が増える。 ・観光する側も観光地側も利点がある。	◎Myルートガイドシステム機能 ◎地域の方の話 □住民で周遊プランを話し合っていることをおさえる。 □Myルートガイドの活用による観光客、観光地両者によさがあることをおさえる。【知①】
まとめる	⑤観光クラウドを活用している地域は全国に広がっていることを理解する。	◆五所川原市以外でどのような地域が観光クラウドを活用しているのだろう。 ○観光クラウドを活用している地域を調べ白地図に表す。 ・青森県の30の自治体が活用するようになった。 ・青森県以外の50の地域・団体等でも活用されている。 ・観光クラウドを活用している地域が全国に広がっている。	◎青森県及び全国で観光クラウドを活用している地域(地図) □調べたことを白地図に表すことで、全国に広がっていることが理解できるようにする。【知①】
	⑥調べたことについて関係図に整理し、学習問題の結論を自分の言葉で説明する。	◆観光に関わる人たちは、どのように情報を活用しているのだろう。 ○調べたことを関連図に表す。 ○関連図を基に、学習問題の結論を文章でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・観光に関わる人たちは、観光クラウドを活用して、自分たちがもっている地域情報を旅行者により分かりやすく伝えることで観光を発展させている。</div>	□関連図は観光クラウドへの情報発信と情報活用の視点でまとめるようにする。【知②】【思②】
いかす	⑦他の情報活用事例を調べ、観光クラウドとの共通点を考える。	◆情報活用をしている産業は、他にどのようなものがあるのだろう。 ○カーナビゲーションシステムについて調べる。 ・全国の交通規制情報やこれまで走行した情報などから速く行けるルートを提示してくれる。 ○観光クラウドとの共通点を考える。 ・たくさんの情報を集めて、利用者にも最適な情報をくれる。 ・スマートフォンやパソコンなどいろいろな機器で利用できる。	◎インターネットナビについての資料 ◎開発者の話 ◎利用者の話 □どちらも、発展することで利用者の利便性が増すことに気付けるようにする。【思②】
	⑧インターネットとマスメディアを比較し、情報活用の在り方について自分の考えをまとめて伝え合う。	○マスメディアが発信する情報の方が利用者から信頼されていることを調べ、その理由を考える。 ・マスメディアは情報に誤りがないように取材や編集をして発信している。 ◆私たちは今後どのような情報活用をすればよいのだろう。 ○情報活用の在り方について考えをまとめて伝え合う。 ・情報によっては間違いもあるから、得た情報が正しいか自分で確かめられるようにする。	◎主なメディアの比較(グラフ) □インターネットの情報は精査されていないものが多く、インターネットで情報を発信する側になる際の心構えを考えて情報活用の在り方を考えるきっかけにする。【態②】

小単元名	情報と産業の関わり (販売業)	配当 8時間	内容 (4) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	--------	-------------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え、表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	②情報化の進展に伴う産業の変化や発展と国民生活の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。事例としては、販売情報を収集・分析して、商品開発をしたり、店舗とインターネットでの販売を融合して行ったりしている販売業を中心に取り上げている。具体的には、「大量の情報や(中略)国民生活を向上させていることを理解すること」と記述され、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術(インターネットやビッグデータ、SNSなど)を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い(4)のイに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で児童が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるよう指導することが大切である。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、販売情報を収集・分析して、商品開発をしたり、店舗とインターネットでの販売を融合して行ったりしている販売業を取り上げる。
- ②情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、コンビニエンスストアを中心としたグループ会社が販売情報を集積・分析し、商品開発したり、店舗とネットでの販売を融合して行ったりしていることなどを調べる。
- ③インターネット内の情報は、マスメディアから発信される情報より精査されておらず、誤った情報が大量にあることを取り上げる。適切な情報を見極めることの大切さを理解した上で、情報活用の在り方について児童が考えをまとめることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①コンビニエンスストアの昔と今を比較することでサービスの違いに気付いたり、食料品の変化に注目し、商品の値段が高いのに情報が関わって売れたりしていることを調べ、学習問題を設定する。
- ②「いかす」段階では、販売業以外の産業の情報活用を調べ、情報活用のメリットやデメリットについて考える。そのことから、情報化社会は、とても便利になっていく一方で個人情報漏洩や犯罪に巻き込まれる恐れがあることに気付かせる。そして、これまでの学習を生かし、国民の一人として、これからどのように情報化社会と関わっていけばよいのかについて話し合い、考えをもとめることができるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つかむ	①コンビニエンスストアの販売の昔と今を比較することを通して、情報を扱う販売業とわたしたちの生活との関わりについて学習問題を設定し、予想を考え、学習計画を立てる。	○コンビニエンスストアの販売の様子について話し合う。 ◆今のコンビニは、昔と比べてどのような違いがあるのだろうか。 ○昔と今のコンビニ店舗の様子を比べて変化について話し合う。 ・買い物の仕方が変わった。 ・サービスが変わった。 ○食料品に注目し、開発商品の値段が高いのに売れているものがあることについて話し合い、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">コンビニエンスストアは、消費者の願いに応えるために、どのように情報を集め、活用しているのだろうか。</div> ○予想を考え、学習計画を立てる。 ・どのような情報をどのように集めているのだろうか。 ・集めた情報をどのように活用しているのだろうか。 ・情報を活用することでどのような変化があったのだろうか。	◎今と昔の店の様子の写真 ◎消費者の声 ◎レトルトハンバーグの写真 ◎レトルトハンバーグ売り上げの変化 ◎商品改良計画 ◎コンビニグループ会社の方の話 【思①】 □物が売れない時代でも情報を活用することで売ることができるという驚きから、学習問題を設定するようにする。 【態①】
	②コンビニエンスストアでは、様々な情報をどこからどのように集めているのかについて理解する。	◆コンビニエンスストアは、どのような情報をどのように集めているのだろうか。 ○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。 ・POS レジを通して、購入商品の履歴を集めている。 ○資料から本部とのつながりについて調べる。 ・店舗で得た情報は、本部とつながっている。	◎POS レジ・プリペイドカード資料 ◎コンビニグループ会社の方の話 ◎情報システム □店舗と本部が双方に情報交換することでより多くの情報を扱っていることをおさえる。【知①】
調べる	③コンビニエンスストアでは集めた情報を商品開発に活用することに理解する。	◆コンビニエンスストアは集めた情報をどのように活用しているのだろうか。 ○商品改良委員会やコンビニグループの分析結果について調べる。 ・価格の安さではなく、上質な商品を求めている。 ○コンビニグループの商品開発について考えたことを話し合う。 ・客の求めているものが買え、販売側の売り上げも伸びる。	◎商品改良委員会 ◎コンビニグループ会社の方の話 □情報を分析・活用し、様々な過程を経て商品開発されていることをおさえる。【知①】
	④コンビニエンスストアでは集めた様々な情報をサービス向上に役立てていることを理解する。	◆コンビニエンスストアは集めた情報を活用して他にどのようなサービスをしているのだろうか。 ○通信販売の仕組みについて調べる。 ・新しいサービスで、自分の都合に合わせて買い物ができる。 ○総合通販の売り上げ推移や利用者の声について調べる。 ・利用者も増え、売り上げも上がっている。	◎通信販売の仕組み ◎通信販売利用者と売り上げの推移 ◎通信販売利用者の声 □利用者の情報を活用することでより消費者のニーズに応えていることに気付かせる。【知①】
まとめる	⑤グループ会社が開発したサービスは、様々なところで受けられるようになって理解する。	◆国民生活にどのような影響があるのだろうか。 ○コンビニエンスストアの店舗数やコンビニグループ会社について調べる。 ・コンビニエンスストアは、約20600店舗、グループ会社は約150社もあるから、どこでもサービスを受けられる。 ○コンビニグループ会社の新しい取組について調べる。 ・今後も多くの情報を活用して、どんどん発展していく。	◎全国の同一コンビニの分布図 ◎コンビニグループ会社概要 ◎コンビニグループ会社のデータ管理 □コンビニエンスストアだけでなく、多くの会社と連携し、全国に広がっていることを理解できるようにする。【知①】
	⑥情報活用における販売業の現状とわたしたちの生活との関りについて関連付け、自分の考えをまとめる。	◆コンビニグループ会社の情報活用は、わたしたちの生活にどのように関わっているのだろうか。 ○これまで調べてきたことを関連図に表す。 ○関連図を基に、学習問題の結論を文章でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・コンビニグループ会社は、大量の情報や情報通信技術を生かして消費者のニーズに応えていくことで売り上げや利用者を増やし、利用者は便利なサービスを受けられるようになっている。</div>	□関連図はコンビニグループ会社の情報活用に消費者である自分を位置付けるようにまとめる。 【知②】【思②】
いかす	⑦他の産業の情報活用について調べ、様々な産業に情報が活用されていることに気付く。	◆情報活用をしている産業は、他にどのようなものがあるのだろうか。 ○産業を発展させている運輸・観光・医療・福祉の事例について調べる。 ・様々な場で情報を活用し、利用者に最適な生活ができています。 ○情報活用して産業が発展することのプラス面・マイナス面についてTチャートにまとめる。 ・便利な一方で、情報もれるなどの危険もある。	◎運輸・観光・医療・福祉の情報活用における資料 □多くの産業の発展が国民の利便性を向上させていることに気付かせる。 【思②】
	⑧情報化社会の課題を知り、これからのわたしたちとの生活の関連について考える。	○情報化社会の課題の新聞記事などについて調べる。 ・個人情報流出やネット犯罪が多く起こっている。 ◆これからどのように情報化社会に関わっていくかよいのだろうか。 ○どのように情報活用していけばよいのか話し合い、考えを書く。 ・適切な情報を見極め、活用していくことが大切である。	◎情報漏洩の新聞記事 ◎サイバー犯罪検挙状況等グラフ □情報化社会の課題を見せることで情報を見極める大切さに気付かせる。 【思②】【態②】

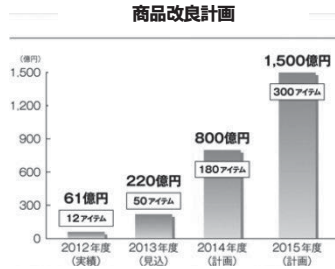
第 1 時の資料 (つかむ)

◆今のコンビニエンスストアは、昔と比べてどのような違いがあるのだろうか。

資料 今と昔の店の様子の写真 消費者の声 レトルトハンバーグの写真  
レトルトハンバーグ売り上げの変化 商品改良計画

レトルトハンバーグステーキの販売状況

年度	販売個数
2010	212万個
2011	446万個
2012	571万個
2013 (7月末)	439万個
累計	1,668万個



(出典) コンビニグループホームページ

コンビニエンスストアの売り上げの変化に着目する。

とても高い商品なのにどうしてこんなに売れるのかな。

こんなにすごい計画をどうやって考えているのかな。

情報ってなんだろう？  
どのような情報が活用されているのかな？

【コンビニグループ会社の方のお話】



ものが売れない時代でも消費者の情報を活用すれば売れるものは作れます。

【指導上の留意点】

コンビニグループ会社の方の話から出てきた疑問について話し合い、学習問題へとつなげる。

【学習問題】

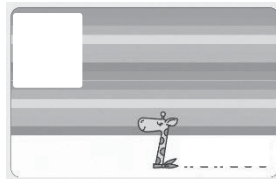
コンビニエンスストアは、消費者の願いに応えるために、どのように情報を集め、活用しているのだろう。

第 2 時の資料 (調べる)

◆コンビニエンスストアは、どのような情報をどのように集めているのだろう。

資料 情報を集める資料

- ・ POS レジ・プリペイドカードについての資料
- ・ コンビニグループ会社の方のお話



(出典) コンビニエンスストアホームページ

情報の種類や情報通信技術に着目する。

【指導上の留意点】

POS レジやカードの情報を集める資料を扱うことで、より多くの情報を様々な方法を用いて集めようとしていることに気付かせていく。

普段買い物をする時に使っているレジなどから、様々な情報を集めているんだね。

【コンビニグループ会社の方のお話】

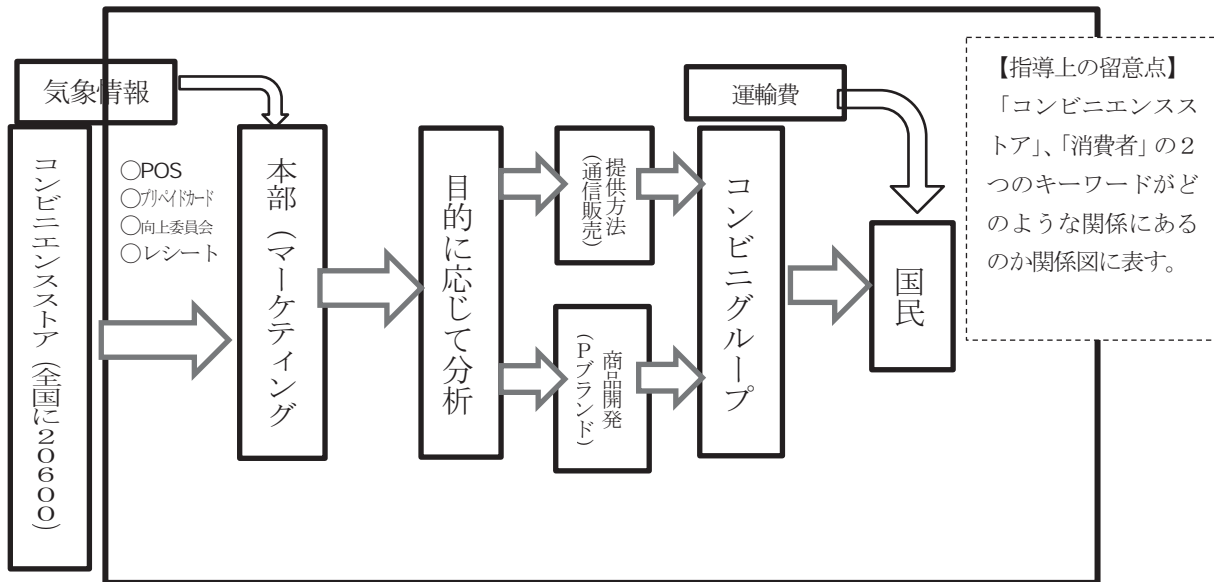


昔は、情報が集めにくく、大変な手間をかけて情報を集めていました。今では POS レジやカード、アプリなど、様々な方法を通して、多くの情報を集めることができるようになりました。そのことの実現により、お客様のニーズにより応えたり、お客様の声を生かしたりすることができるようになりました。

昔と違って、様々な方法を使って多くの情報を集めることができるようになったんだ。

## 第6時の資料 (まとめる)

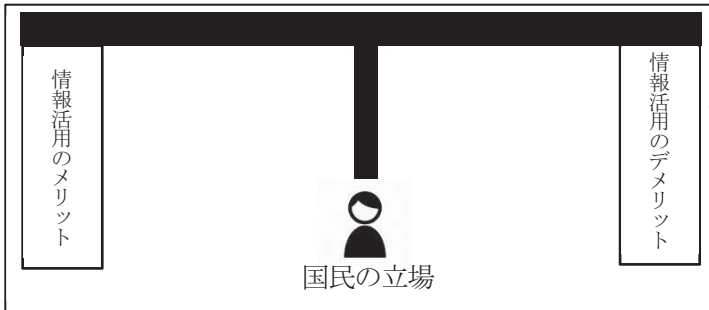
◆コンビニグループの情報活用は、わたしたちの生活にどのように関わっているのだろう。



コンビニグループでは、大量の情報や情報通信技術を生かして消費者のニーズに応じていくことで売り上げや利用者を増やしている。また情報活用が進んだことで消費者が場所や時間を選ばずにより便利なサービスを受けられるようにしている。

## 第7・8時の資料 (いかす)

◆これからどのように情報化社会に関わっていけばよいのだろう。



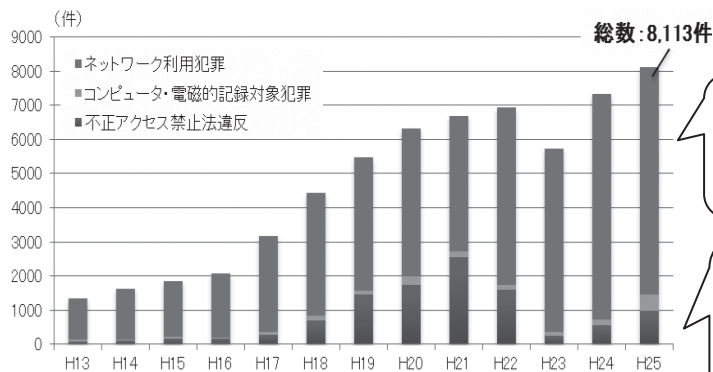
情報活用によって国民の生活は、便利になっている。一方で個人情報の扱いやネット犯罪などの課題があるのではないかな。

### 【指導上の留意点】

学習指導要領の内容の取扱いにあるように、情報化社会のよさや課題について自分の考えをまとめることができるようにする。

情報を活用することが増えているから、これからもっと犯罪も増えていくかも。

情報化社会は、わたしたちを便利してくれるけれど、適切な情報を見極め、活用していくことが大切だ。



(出典) 警視庁「サイバー犯罪の検挙状況等」平成 25 年

小単元名	情報と産業の関わり (運輸業)	配当 8時間	内容 (4) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	--------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の産業と情報の関わりについて、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめ、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にして、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、考えようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用の仕方について、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状について理解している。	①情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見出し、産業における情報活用の現状について考え、表現している。	①我が国の産業と情報との関わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	②情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上に関連付け、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	②学習したことを基に、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)の「我が国の産業と情報との関わり」に関する内容で構成したものである。事例としては、運輸における情報を収集・分析して、効率の良い運行を可能にするダイヤルートの最適化をしたり、乗降客数の増加や再配達の減少をしたりしている運輸業を中心に取り上げている。具体的には、「大量の情報や(中略)国民生活を向上させていることを理解すること」と記述され、情報を活用しながら変化し発展している産業、情報通信機器を利用する国民などの情報と関わる人々を取り上げ、情報や情報通信技術(インターネットやビッグデータ、SNSなど)を活用する産業の役割について扱うことが求められている。
- ②内容の取扱い(4)のイに示された「産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で児童が情報活用の在り方を多角的に考え、まとめることができるよう指導することが大切である。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「我が国の産業と情報との関わり」について理解できる事例として、運輸における情報を収集・分析して、効率の良い運行を可能にするダイヤルートの最適化をしたり、乗降客数の増加や再配達の減少をしたりしている運輸業を取り上げる。
- ②情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、バス会社や運送会社が情報を収集・分析し、効率の良い運行を可能にするダイヤルートの最適化をしたり、乗降客数の増加や再配達の減少をしたりしていることなどを調べる。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①全国にある路線バスには、利用者が減ったり、バスが走っていない場所もあったりするなどの課題に注目する。一方で、利用者を増やすことができているバス会社やその利用者の声について調べ、学習問題を設定する。
- ②「いかす」段階では、「まとめる」段階までの学習を基に、運輸業における情報活用を通じたよりよい発展やそれを通じたわたしたちの生活を向上させていくために必要なことを考える。そのことから、運輸業が情報を活用して、よりよく発展していくためには、情報を集める技術や分析する技術を伸ばしていくとともに、どのような情報を集めて、どう情報を活用していくのかについて、よく考えられるようにすることが必要であることに気付かせる。そして、情報を活用した未来の産業について考えをまとめることができるようにする。

### 3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料 【評価】)
つ か む	①②情報を扱う運輸業とわたしたちの生活との関わりについて学習問題を設定し、予想を考え、学習計画を立てる。	○情報とわたしたちの生活の関わりを振り返り、運輸業への関心をもつ。 ◆人や物を運ぶ産業は、どのように情報と関わっているのだろう。 ○全国にある路線バスの現状について調べ、疑問や考え出し合い、学習問題を立てる。 ・バス利用者が60億人も減っている。 ・どのような方法で利用者を増やしているのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人や物を運ぶ産業では、わたしたちの暮らしをよりよくするために、どのように情報を集め、活用しているのだろう</div> ○予想を考え、学習計画を立てる。 ・どのような情報をどのように集めているのだろう。 ・集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ・物を運ぶ産業では、どのような情報を活用しているのだろう。	◎イラスト「生活の中の情報」 ◎主なサービス業における年間売上高 ◎バス事業者の黒字と赤字の割合 ◎乗合輸送人員の変化 ◎運転免許返納件数 ◎バス利用者の話 ◎日高市の路線バス利用者人員推移 ◎バス会社の方の話 □日高市でのバス事業の課題を確認した上で、改善状況を示し、疑問をもたせる。 <b>【思①】【態①】</b>
	③バス会社では、様々な情報をどこからどのように集めているのかについて理解する。	◆バス会社は、どのような情報をどのように集めているのだろう。 ○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。 ・車内に乗降センサーがあり、どこかのバス停でどれだけの人が乗ったのかという情報を集めている。 ・車内アンケートを集めて、どんな要望があるのかを毎週必ず確認している。	◎車内装置 ◎車内アンケート ◎バス停別乗車人員 ◎バス会社の方の話 □アンケートのアナログデータも含めて、情報として集めていることを確認する。 <b>【知①】</b>
調 べ る	④⑤バス会社では集めた情報を活用し、問題点の分析や改善を行っていることを理解する。	◆バス会社では、集めた情報をどうしているのだろう。 ○情報を活用する前後のバスルートの違いについて話し合う。 ・通る道が変わっている。 ・なくなったバス停や新しくできたバス停がある。 ○バス会社が、集めた情報をどのように活用しているのか、資料を読み取り調べる。 ・使う人がいないバス停にバスを停めることをやめて、より必要な人がいる場所をアンケートで確認したことで、バスルートとバス停を変えた。 ○バス会社が、情報を活用したことで、どのように利益を上げたのかについて話し合う。 ・バスルートの変更を行ったことで、乗客が増えて利益につながった。	◎改善前後のバスルートを比較する地図 ◎バス停ごとの乗車人数表 ◎バス会社の方の話 □集めた情報を分析しルートを改善した結果、赤字改善につながったことをおさえる。 ◎サービス評価推移(グラフ) □情報を活用することで、事業者と乗客のどちらにとっても利便性が高まったことを確認する。 <b>【知①】</b>
	⑥バス会社と同じように、情報を活用して発展している運輸業について理解する。	◆物を運ぶ産業では、バス会社のように情報を活用しているのだろう。 ○運送会社など、物を運ぶ運輸業が抱えている課題について知る。 ・インターネットによる購入者の増加で、配達が良い付かなくなっている。 ○情報を活用して発展している運送会社の事例について調べる。 ・宅配ネットワークシステムを使うことで、一番効率の良いルートで配達をできるようになっている。 ○バス会社と運送会社を比較し、共通点を考える。 ・様々な情報を活用して、物を運びやすくしている。	◎宅配便の取扱数の推移 ◎運輸業従事人口の推移 ◎宅配便の再配達率の割合 ◎宅配ネットワークシステムの図 ◎次世代宅配サービスの写真 □バス会社の取組との共通点や相違点について考えさせる。 <b>【知①】</b>
ま と め る	⑦運輸業における情報活用の現状とわたしたちの生活との関りについて関連付け、自分の考えをまとめる。	◆人や物を運ぶ産業は、情報を活用することでどのように発展し、わたしたちの暮らしをよりよくしているのだろう。 ○これまで調べてきたことを関連図に表す。 ○関連図を基に、学習問題の結論を文章でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">バス会社や運送会社などの人や物を運ぶ産業では、大量の情報や情報通信技術を生かし、利用者の願いに応じて、運行や配送の最適化や効率化を行っていくことで売り上げや利用者を増やしている。また情報活用してサービスの向上が進んだことで、利用者にとっての利便性も高まっている。</div>	□関連図はバス会社や運送会社の情報活用に消費者である自分を位置付けるようにまとめる。 <b>【知②】【思②】</b>
い か す	⑧情報活用を通じたわたしたちの生活向上について、考えをまとめる。	◆これからの運輸業は情報をどのように活用して発展していくとよいのだろう。 ○運輸業が情報を活用して、より発展していくことや、それを通してわたしたちの生活の向上をさせていくために必要なことを考え合う。 ○情報を活用した未来の産業について考えたことをノートにまとめる。	◎バス会社の方の話 □よりよい情報活用の将来に向けて必要なことや自分たちが関わられることを考えられるようにする。 <b>【思②】【態②】</b>

小単元名	自然災害を防ぐ	配当 6時間	内容 (5) アの(ア)及び(エ)とイの(ア)
------	---------	--------	-------------------------

＜「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の自然災害の様子について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え、表現している。 ②自然災害と国土の自然条件や対策を関連付けて考えたり、学習したことを基に国民一人一人の防災意識を高めることが大切であることに気付いたりしたことを、適切に表現している。	①我が国の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)「我が国の国土の自然環境と国民生活」との関連で構成したものである。ここでは、「自然災害と国土の自然条件との関連」や「国や県などの対策や事業」を取り上げ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや国民の生活を守るために国や県などが様々な事業や対策を進めていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)アに示された「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。」については、第4学年「自然災害から人々を守る活動」とのねらいの違いを意識し、自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解することが求められている。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①児童が災害の種類や発生の位置や時期に着目して「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していること」を理解できるようにするために、「全国で発生する自然災害の種類」「地図帳」「年表」を資料として活用する。
- ②日本は自然災害が多く発生する国土であり「自然災害に見舞われる可能性」では世界4位である。国連大学によって、被害の大きさや復旧までにどれぐらい時間がかかるかということを示した「脆弱性ランキング」が発表されており、その中では「脆弱性ランキング」17位となっている。社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせて、資料をもとに、災害に見舞われる可能性と実際の被害の多さの違いに着目させ、日本の自然災害への問題意識を高められるようにする。
- ③「全国の防災力ランキング」(日本気象株式会社提供)とは、都道府県ごとの防災意識を調べ集計してランキングにしたものである。防災意識を調査する際には「気象情報(警報など)を日頃からチェックしている」や「近くの避難所を知っている」などの質問に対する回答をもとに算出している。このランキングからは、何度も繰り返し大きな自然災害に見舞われた地域の人々ほど、防災意識が高いことが読み取れる。この資料をもとに、住んでいる地域の自然条件を意識して生活する人の姿に目を向けさせ、「自然災害の多い国土で生活する国民一人一人の防災意識を高めることの大切さ」を考えられるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①つかむ段階で、自然災害と国土の環境との関連を捉えた上で、調べる段階以降で自然災害に対する対策を調べるように学習を展開する。
- ②調べたことを説明し合い、学級で「災害の種類や原因」「防災対策とその意図」を表に整理し、学習問題に対する考えを書く。



### 3 小単元の指導計画 (6時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①日本で発生する自然災害の種類や位置、年代、回数を理解する。	○日本で発生したことがある自然災害を調べる。 ◆日本ではいっどこでどのような自然災害が発生しているのだろう。 ○日本で発生する自然災害の種類や位置、年代、回数を調べる。 ・たくさんの種類の自然災害が全国で繰り返し起きている。	◎自然災害の種類 ◎地図帳 ◎年表 □白地図に発生した位置や年代を記入させ、場所による違いや繰り返し発生していることに気付かせる。 【知①】
	②日本で発生する自然災害の被害や原因を調べることを通して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	○日本で発生する自然災害の被害や原因を調べる。 ・地形や気候によって発生しやすい自然災害に違いがある。 ○疑問を交流し学習問題を設定する。 ・自然災害が多く発生しやすいのに、なぜ脆弱性は高くないのだろうか。 ・何か対策がされているのだろうか。	◎自然災害によって被害を受けた方の話 ◎自然災害の原因 ◎国別自然災害による脆弱性ランキング □脆弱性が低いことに着目して学習問題を設定させる。 【思①】
		自然災害からわたしたちの生活を守るために、どのような対策がなされているのだろう。	
		○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・自然災害の被害を減らすために、それぞれの対策がありそうだ。 ・地域によって違いがあるのかもしれない。	□第4学年時の学習を基にしながら調べる見通しをもてるようにする。 【態①】
調べる	③地震や津波の対策について理解する。	◆地震や津波に対して国や県はどのような対策をしているのだろう。 ○地震や津波に対する国や県の取組を調べ、国や県の人々の意図を話し合う。 ・緊急地震速報や防波堤をつくっている。 ・何百年かに1回の大災害でも被害を減らせるようにしている。	◎地震や津波への対策 ◎国土交通省の方の話 □対策を進める意図について話し合う際には、現代の人だけでなく未来の人に向けての取組であることに目を向けられるようにする。 【知①】
	④風水害や火山災害・雪害の対策について理解する。	◆風水害や火山災害、雪害に対して国や県やどのような対策をしているのだろう。 ○地震や津波に対して国や県の取り組みを調べ、国や県の人々の意図を話し合う。 ・流雪溝や防砂林を作ったり、ハザードマップを作ったりしている。 ・ハザードマップなどを活用して、自分で身を守れるようになってほしい。	◎風水害や火山災害、雪害への対策 ◎国土交通省の方の話 □話し合う際には、ハザードマップの意味に着目し、「国民の防災意識を高める」ことの大切さに目を向けられるようにする。 【知①】
	⑤防災ランキングを調べることを通して、自然災害と国民生活との関わりを考える。	◆防災力ランキングの上位の県民はなぜ防災意識が高いのだろう。 ○防災意識の高い都道府県とその回答内容を調べ、自然災害と生活との関連を話し合う。 ・自然条件から自然災害が発生しやすいため、自分たちの生活を守るために日頃から備えている。	◎全国の防災力ランキング ◎調査質問項目 ◎地図帳 □県で発生する自然災害や調査質問項目と関連付けて、災害の頻度が要因となっていることに目を向けられるようにする。 【思①】
まとめる	⑥調べたことを表に整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめ自分の言葉で説明する。	◆自然災害からわたしたちの生活を守るために、どのような対策がされているのだろう。 ○調べたことを「自然災害の種類」「対策」「意図」の視点で整理する。 ○調べたことを整理した表と日本地図とをもとに、自然災害に対する国や県の対策の仕方や意図について話し合う。	□すべての都道府県に自然災害への対策があることから、自然災害が多く発生する国土で国民は生活していることや生活を守るために様々な対策が行われていることに注目させる。 【思②】【知②】
		・自然災害は国土の自然条件と関連して発生しているので、国民の生活を守るために国や県などはその地域に合わせて対策や事業を進めている。	

小単元名	わたしたちの生活と森林	配当 7時間	内容(5)アの(イ)及び(エ)とイの(イ)
------	-------------	--------	-----------------------

＜「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

我が国の森林について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林はその育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、森林資源の育成や保護の取組に協力していこうとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林はその育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	①森林資源の分布や働きなどに着目して問いを見出し、国土の環境について考え、表現している。 ②森林と国土保全や国民生活を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことを基に森林の保護や育成に対しての自分の関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①我が国の森林について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②森林の保護や育成の課題に気づき、今後、森林を守り続けていくために自分はどうに関わるのかを考えていこうとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「我が国土の自然環境と国民生活との関連」に関する内容で構成したものである。ここでは、「森林の育成や保護に従事している人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係か国土の保全など重要な役割を果たしていることを扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)ウに示された「国民の一人として国土の自然環境…(中略)国民一人一人の協力の必要性に気付くこと」については、「まとめる」段階で、児童がこれからの森林の育成・保護について相互関係的な視点で捉え、国民の一人として自分たちに協力できることを考えたり、選択・判断したりできるようにすることを意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①事例地として、東京都の森林を取り上げた。児童にとって、自分たちが住む東京都の「都会であり森林が少ない」というイメージとは逆に、東京都は約4割が森林であることは興味・関心を高めることができると考える。また、かつて生産が減っていた多摩産材は、約60年前に植林した森林が育ち出荷できる状態になったこと、花粉症対策で皆伐を行う施策を進めたことなどの理由から、近年、生産が増えているという点も教材として魅力的である。
- ②森林の育成や保全する取組を、行政のみが主導で行うことには限界がある。社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、行政・企業・市民が連携して取り組んでいくことが大切であることを捉えさせるとともに、児童が国民の一人としてどのように森林の育成や保全に向き合うと良いのか考えることができるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①学習問題を「今後、東京都の森林が荒れないようにするには、どうしたらよいか。」と設定し、児童が国民の一人として国土の自然環境を維持するために、自分たちに協力できることを考えたり、選択・判断したりできるようにした。今回の指導計画では、「いかす」段階を設けなかったため、「調べる」段階から自分たちにできることを意識しながら学習を追究できるようにした。
- ②森林の働きについて、「つかむ」段階で調べる活動をすることで、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせて、森林がどのような働きをもっているのかを理解した上で、国土を保全の重要性に一層関心をもって追究できるようにする。
- ③「調べる」段階では、森林の働き、行政・企業・市民による森林の育成・保全の取組について、1時間ごとに分かったことや考えたことを関連図にまとめることで、様々な立場の人が連携・協力することで進められていることが理解できるようにする。そして、「まとめる」段階では関連図にまとめた後に、国民の一人として、自分が国土を保全することについてどのように考えたり関わったりするのかを表現する。

3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①森林と自分たちの生活とのつながりを振り返り、森林がもつ働きについて理解する。	○写真や資料を読み取って、日本の国土の大半が森林であることに興味をもつ。 ・日本の66% (約3分の2) が森林だ。 ・東京都の中でも4割近くも森林があるんだ。 ○森林の種類には、天然林と人工林があることを知る。 ◆森林にはどのような働きがあるのだろうか。 ○自然に親しんだ経験や資料を基に、森林の働きをウェブマップにして表す。	◎日本の国土のランドサット図 ◎日本の土地利用の割合 ◎東京都の森林面積の割合 ◎天然林(白神山地)と人工林の写真 ◎森林の働きが分かる資料(教科書、資料集など) □水道水源林としての役割があることを4年の学習から想起させる。【知①】
	②森林の現状を調べる学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	○荒れた人工林や鹿の食害を受けた山林の写真、林業従事者の減少を基に東京都の森林の現状や課題をつかむ。 ・荒れた森林は暗くて、葉っぱがない。 ・林業の人手不足は深刻だ。 ○手入れされた人工林の変化に疑問をもち、学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今後、東京都の森林が荒れないようにするには、私たちはどうしたらよいのだろうか。</div> ○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・人手が足りないからボランティアの力を借りているのではないか。	◎荒れた人工林や食害にあった山林、土砂崩れが起きた山林の写真 ◎林業従事者の推移 □資料は東京都の森林について分かるものを使用する。【思①】
調べる	③林業に携わる人々の仕事の内容、工夫や努力していることを理解する。	◆東京都の人工林はどのように育てられているのだろうか。 ○林業に携わる人々の仕事の内容を調べ、分かったことを関連図に表現する。 ・森林はとても手間や時間がかかる仕事だ。 ・安い輸入木材が入ってきて出荷量が減ってしまった。 ○関連図から分かったことや気付いたことを話し合う。	◎森林の整備する様子が分かる写真(育苗・植林・下草刈り・枝打ち・間伐・切り出し・搬出) ◎森林組合の方のお話 ◎木材輸入量の変化【知①】
	④東京都の森林の保護・育成のために行政が行っている取組について理解する。	◆東京都は、どのように森林を守り、育てているのだろうか。 ○東京都が森林を保護・育成するために行っている取組を調べ、分かったことを関連図に表現する。 ・スギ花粉対策の皆伐を進めることで多摩産材の生産が増えてきた。 ・森林作業道の整備を進め、大きな機械が入れるようにしている。 ○関連図から分かったことや気付いたことを話し合う。	◎東京都の森林整備 ◎多摩産材の増加傾向が分かるグラフ ◎森林作業道の整備 □東京都の「森づくり推進プラン」を参考に児童に分かりやすいように資料を加工する。【知①】
る	⑤東京都の森林の保護や育成のために企業や市民が行っている取組を理解する。	◆企業や市民は、どのように森林を守り、育てているのだろうか。 ○企業が行政と連携して、環境保全に取り組んでいることを調べ、分かったことを関連図に表現し、話し合う。 ・企業と協力して花粉の少ない森づくりをしているんだ。 ・林道をつくり、作業のできる山を増やしている。 ・市民がボランティアとして森林作業に取り組んでいる。	◎企業の森 ◎東京チェーンソーズの取組 □ホームページやインタビュー記事を活用して調べる。 ◎「とうきょう林業サポート隊」の取組【知①】
まとめる	⑥⑦関連図にまとめることを通して、森林の保護・育成に向け、人々が協力して取り組む必要があることをまとめる。	◆森林の保護・育成は、どのように進められているのだろうか。 ○東京都、企業、市民の関わりについて、矢印や意味付けを関連図に書き入れ、それぞれの立場が連携して国土の保全に取り組んでいることをまとめる。 ○学習問題に立ち返り、森林保全に対する自分の考えを表現する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・森林は、国土を守る様々な働きがあり、行政、企業、市民が連携し協力して整備を進め、育成し、保護している。だから私たちも国民の一人として森林を守る活動に取り組んだり、関心をもち続けたりすることが大切だ。</div>	◎林野庁による保安林指定 ◎奈良県吉野町の取組 □関連図を基に、学習問題に対する考えをまとめる。【知②】【思②】 <div style="text-align: right;">【態②】</div>

小単元名	環境を守るわたしたち	配当 7時間	内容 (5) アの(ウ)及び(エ)とイの(ウ)
------	------------	--------	-------------------------

＜「地理的環境と人々の生活」及び「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

## 1 小単元の目標と観点別評価規準

### (1) 目標

公害の防止と生活環境の様子について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した協力をしようとする態度を養う。

### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取組を理解している。	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見出し、公害防止の取組について考え、表現している。	①公害の防止と生活環境の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	②国土の環境や国民の健康な生活を関連付けて、公害防止の取組の働きを考えたり、国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善について自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。	②国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善について、自分たちにできることを考えようとしている。

## 2 指導計画の作成に当たって

### (1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」に関する内容で構成したものである。ここでは、「公害の防止と生活環境の様子」を取り上げ「関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたこと」や「公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さ」を扱うことが示されている。
- ②内容の取扱い(5)のウに示された、「国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、単元末の「いかす」段階で、自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして、国土の環境保全への関心を高めるようにすることを意図している。

### (2) 教材や資料の工夫

- ①「東京湾の海水浴場復活(湾の東京都側)」を教材として取り上げることで、東京都で生活する児童に「東京湾は元々泳げたのか」「なぜ今は1か所しか泳げないのか」などの疑問や驚きをもたせることができる。
- ②公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせて、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解できるようにするために、「東京湾の水質汚濁の発生時期や経緯(年表、地図)」「東京湾の水質汚濁の原因」「国・都・工場・市民の取組」「全国での公害への取組」を資料として活用し、長年取り組んでいることを捉えられるようにする。
- ③「国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した協力の必要性」を考えられるようにするために、「東京湾での海水浴の可能日数の推移(グラフ)」を取り上げ、自分の取組と自然環境や生活環境との関わりに目を向けられるようにする。

### (3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①調べたことを説明し合い、学級で「公害防止に関わる人々の協力や努力」を関連図に表し、学習問題に対する考えを書く。
- ②学習したことを基に、東京湾の水質改善に取り組む人々に対して「自分が協力できること」を選択・判断しながら意見交換する学習活動を設定する。

### 3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①東京湾の水質汚濁の発生時期や原因、経過を調べることを通して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	<p>○東京湾の水質汚濁の発生時期や原因、経過を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆東京湾は川から生活排水や工業排水が流れ込み、50年ほど前から海水浴ができなくなった。</li> <li>◆高度経済成長の時期で、産業の発展が優先された。</li> </ul> <p>○東京湾での海水浴が51年ぶりに1か所だけ復活したことについて、疑問を交流し学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆どうやって復活させたのだろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東京湾の海水浴場を復活させるために、誰がどのように取り組んだのだろう。</p> </div> <p>○予想を出し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆東京都や工場が取り組んだのではないか。</li> <li>◆市民が何か取り組んだのではないか。</li> </ul>	<p>◎東京湾の水質汚濁の発生時期や全国の公害発生の経緯(年表、地図)</p> <p>◎東京湾の水質汚濁の原因</p> <p>□高度経済成長の時期であり、全国の公害が広がっていたことに気付かせる。</p> <p>◎新聞紙面 【思①】</p> <p>□長い期間をかけて復活したことに注目させる。 【態①】</p>
調べ	②国や都による水質改善の取組を理解する。	<p>◆国や東京都はどのような取組をしたのだろう。</p> <p>○国や東京都の取組を調べ、その意図を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆国や環境に関する法律をつくった。</li> <li>◆都は環境に関する条例や下水道整備を進めて汚水が流れ込まないようにした。</li> </ul>	<p>◎国による法整備</p> <p>◎都による条例や下水道整備</p> <p>◎水質改善までの経緯(年表)</p> <p>□行政によって社会の仕組みが整えられたことに気付かせる。 【知①】</p>
まとめ	③工場による水質改善の取組を理解する。	<p>◆工場はどのような取組をしたのだろう。</p> <p>○工場の取組を調べ、その意図を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆工場は法や条例に従ったり、自主的に汚さない取組を進めたりした。</li> </ul>	<p>◎工場での排水規制や啓発活動</p> <p>◎水質改善までの経緯(年表)</p> <p>□企業が責任ある行動をしたことに気付かせる。 【知①】</p>
まとめ	④市民による水質改善の取組を理解する。	<p>◆市民はどのような取組をしたのだろう。</p> <p>○市民の取組を調べ、その意図を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆東京湾で海苔を育て水質改善の活動をした。</li> <li>◆市民団体をつくり、啓発活動を進めた。</li> </ul>	<p>◎市民団体による啓発活動</p> <p>□活動の輪が広がっていることに注目して、市民活動の意義を考えさせる。 【知①】</p>
いかす	⑤調べたことを関連図に整理し、学習問題について話し合い、結論を自分の言葉で説明する。	<p>◆東京湾の海水浴場を復活させるために、誰がどのように取り組んだのだろう。</p> <p>○東京湾の海水浴復活と「国」「都」「工場」「市民」の関わりを関連図に整理する。</p> <p>○東京湾の海水浴復活に関わる人々の取組について整理した情報をもとに話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・公害の防止や生活環境を改善し維持するために、国や東京都、工場、市民などの多くの人々が長年にわたり努力を続けている。</p> </div>	<p>◎これまでの学習</p> <p>□東京湾の水質改善のために、様々な立場の多くの人が、長い年月をかけて取り組んでいることに注目させる。 【知②】</p>
まとめ	⑥全国での取組を調べ、環境保全には多くの人の長年の取組が必要なことについて考える。	<p>○第1時で学習した「全国の公害発生」を振り返る。</p> <p>◆全国で発生していた公害に対して、どのような取組が行われているのだろう。</p> <p>○全国での環境を守る取組と東京湾への取組の共通点を調べ、環境保全に大切なことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆東京都と同じように、多くの人の、長い年月をかけた取組によって環境をよくしようとしている。</li> </ul>	<p>◎全国の公害と改善の取組</p> <p>◎各自自治体の公害防止計画</p> <p>□東京湾での取組との共通点に着目し、行政や企業、市民の取組に整理して考えさせる。 【思②】</p>
まとめ	⑦東京湾の水質を維持・改善するために、自分が協力できることを選択・判断することを通して、国民の一人として協力する必要性を考える。	<p>◆東京湾での海水浴の日数を増やすために、自分は誰の、どのような活動に協力できるだろう。</p> <p>○東京湾の水質改善に関わる、東京都・工場・市民団体の取組の中から、自分の立場を踏まえて協力できることを選択・判断し、考えたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆下水道できれいになっているけれど、汚水を家から流さないようにして、海を汚さないようにする。</li> <li>◆市民団体が海に親しむイベントを実施している。自分も参加して、きれいな海の大切さを感じ、まだ知らない人に伝えたい。</li> </ul>	<p>◎東京湾での海水浴の可能日数の推移(グラフ)</p> <p>◎東京地域公害防止計画</p> <p>□海水浴の日数は今後の取組次第で減少する可能性があることも踏まえて、自分が協力できることを考えさせる。 【思②】【態②】</p>

